

令和２年度 茨城県第４採択地区第２回教科用図書選定協議会議事録

- １ 日 時 令和２年７月７日（火）午前１０時００分
- ２ 会 場 大洗文化センター 大会議室
- ３ 内 容

<事務局>

定刻となりましたので、要項に従いまして進めさせていただきますが、会に先立ちまして、本日の進め方について確認させていただきます。

本日の第２回選定協議会につきましては、中学校用教科用図書、続いて、特別支援学級用教科用図書の審議を行います。その後、資料等の公開の対応について協議させていただきます。

それでは、「開会のことば」を 本選定協議会副会長 城里町教育委員会教育長 高岡 秀夫 様お願いいたします。

（１）開会のことば 副会長 城里町教育委員会教育長 高岡 秀夫 様

（２）教科用図書選定協議会会長あいさつ

<会長>

本日は、令和２年度第４採択地区第２回教科用図書選定協議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。昨日のニュースでも新型コロナウイルス感染者数が増えてきており、茨城県においても県知事から第２波の兆候といった発言がありました。各教育委員会については、そういった対応の中、お集まりいただきましてありがとうございます。学習指導要領の改訂に伴いまして、今般、中学校用の教科用図書採択ということになります。調査部長から部門ごとの報告をしていただき、その報告に基づき審議、議決を行っていただく予定になっております。教科書採択ということで、例年通り慎重かつ適正な選定ができるようにご協力をお願いいたします。本日は、よろしくお願いいたします。

<事務局>

ありがとうございました。

それでは採択についての審議・議決に移ります。

採択についての審議については、本選定協議会規約第９条によりまして、議事の進行は会長が行うこととなっております。飯島会長、よろしくお願いいたします。

<会長>

それでは議事に入ります。議事の進め方ですが、教科ごとに審議及び議決していきます。教科の順番は、家庭、保健体育、国語・書写、社会、数学、理科、外国語、技術、音楽、美術、道徳、特別支援教育の順で行いたいと思います。時間の配分については、各教科で分量の違いもござい

ますので、事務局において勘案して配分しております。

各教科の議決までの流れでございますが、最初に、調査部会からの報告をいただきまして、調査部会への質疑となります。各部長が報告をしますので、ご質問がある場合は質疑をお願いいたします。その後、部長が退席した後に、審議・議決をいただき、採択理由書の検討をしていただき進めてまいります。

それでは、はじめに家庭調査部会からの報告をいただきたいと思います。

調査報告書、教科用図書見本本配布

家庭調査部長入室

<会長>

それでは、家庭部会の報告をお願いします。

<家庭調査部長>

各教科書の特徴について報告いたします。

まず、「新しい技術・家庭 家庭分野」「東京書籍」の主な特色について申し上げます。

1の項目「学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について」の特色ですが、まず、育成すべき資質・能力が各節の冒頭に「目標」として掲げられており、これを意識して指導することで指導と評価の一体化が図られています。「食」と「衣」の分野では、「いつも確かめよう」のコーナーで基礎的・基本的な知識・技能をまとめて示し、生活の中で役立てられるような工夫が見られました。各題材とも、生活をよりよくしていくための資料や写真・イラストなどが多数取り上げられ、既習事項を振り返りながら発展的に学習できるよう配慮されていました。

視覚に訴える資料も効果的で、巻末には各分野のデジタルコンテンツが一覧になっており、動画や関連ホームページを活用できるようになっていました。また、関連分野の他教科の教科書資料も見ることができ、カリキュラムマネジメントにも配慮されていました。

2の項目「内容の程度及び取り扱いについて」の特色ですが、「生活の営みに係る見方・考え方」の観点から見ますと、各内容とも終末は「持続可能な〇〇を目指して」というSDGsに関する内容で統一されており、学校での学びと家庭での実践がつながるような工夫が見られました。また、「プロに聞く」というコーナーで専門家の意見を紹介し、キャリア教育にも配慮されていました。

「主体的・対話的で深い学び」の観点からは、巻末に「生活の課題と実践」が集約されており、内容ごとに豊富な実践例が示され、自らの課題と実践において大変参考になると思われます。また、各内容のまとめでは「振り返ろう」「確かめよう」「生活に生かそう」の構成となっており、主体的に学習の振り返りができるよう工夫が見られました。

3の項目「配列・分量」に関してですが、学習指導要領とは違い、教科書の配列は指導の流れ

を考慮したB, A, Cの順となっています。また、内容A・B・C・Dを1・2・3・4・5編と表記を変えており、ここが他の教科書と大きく違っている点です。この教科書では内容Bの食生活から学習を始め、教科書通り進めていけばほぼ年間指導計画通りという「使いやすさ」が大きな特徴となっております。

なお、今回の改訂で新しく入った「蒸し調理」に関しましては、参考例として取り上げられていました。

4の項目「表記・体裁」についての特色ですが、文字はユニバーサルデザインフォントで、表紙・本文とも全ての色覚特性に配慮した色を使用しています。また、教育漢字以外の漢字には振り仮名を付けたり、軽量な用紙で身体的負担を軽減したりするなど、随所にユニバーサルデザインへの配慮が見られました。さらに、多くのマークを使用することにより、情報を整理し使いやすくする工夫が見られました。

続きまして、「NEW技術・家庭 家庭分野」「教育図書」の主な特色について申し上げます。

1の項目「学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について」に関する特色を報告いたします。

実習や製作では、写真や資料が充実しており、調べ学習等に活用しやすいよう工夫されています。また、QRコードから動画資料へリンクでき、基礎技能の習得に生かすことができます。各章の振り返りでは、3観点に沿った問題が提示され自己評価の指標とすることができます。また、「私の学び」の欄を設け、自分の言葉で振り返りを書くことで言語事項への配慮もされていました。

各題材の「やってみよう」「考えてみよう」、そして「生活の課題と実践」では、生活をよりよくするための具体例を数多く取り上げることで、主体的に考え行動するための糸口が見付けやすく工夫されていました。

2の項目「内容の程度及び取り扱いについて」についての特色ですが、「生活の営みに係る見方・考え方」では、小題材ごとに「自立度チェック」が学習の始めに位置づけられており、導入の工夫が見られました。写真を多く掲載することで生活の営みに係る見方・考え方がイメージしやすくなっている点も工夫の一つです。「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、各分野において生活と関連させた具体的な問いかけや話し合いの場面を多く設け、主体的・対話的に学ぶことができるよう配慮されていました。

3の項目「配列・分量」についての特色ですが、学習指導要領のA, B, Cの順に配列し、各内容の最後に「生活の課題と実践」が設けられています。体裁は他社と違い、縦が長く横幅が狭い変形AB版となっており、実習例が豊富で手順や分量等が丁寧に記載されていました。今回の改訂で新しく入った「蒸し調理」につきましても、他の調理と同様に紙面を割き、基礎技能の習得に配慮していました。

4の項目「表記・体裁」についての特色ですが、文字はユニバーサルデザインフォントを使用し、従来より10%拡大した見やすい文字となっております。また、題材名を極太にしたり、押さえない語句を青文字にしたり、表記上の工夫が見られました。本文は簡潔な文章表記となって

おり、見やすさ・読みやすさへの配慮が感じられました。

最後に「技術・家庭 家庭分野」「開隆堂」の主な特色について申し上げます。

1の項目「学習指導要領の教科の目標を達成するために扱う内容の選択について」の特色ですが、まず、小中連携の観点から各内容とも小学校での学びの内容を振り返り、基礎から応用へと発展する内容構成になっています。実習のめあてを明確にし、手順を確認して実践できる題材の設定により、基礎的・基本的な知識及び技能を習得できるよう配慮されていました。各分野のまとめでは、見方・考え方を働かせ、自分の言葉で記入するようになっており、言語活動の充実にも配慮が見られました。また、学習内容に即した実践や実験が該当する頁にQRコードで示されており、今必要な情報に瞬時にアクセスできる便利さと、各内容全てを網羅している豊富さが他社との大きな違いです。他教科へのリンクも各分野の該当頁に示されており、カリキュラムマネジメントへの配慮も見られました。さらに、人体図を使って栄養素の働きを示したり、だし汁の取り方では風味について具体的にふれたりするなど、何のために学ぶのかを理解して学習を進められるような工夫が見られました。

2の項目「内容の程度及び取り扱いについて」の特色ですが、「生活の営みに係る見方・考え方」の観点から見ますと、持続可能な社会の構築に向け、SDGsが全ての内容と関連づけられており、各課題について生徒自らが考えを深められるよう工夫されていました。また、「先輩からのエール」のコーナーではQ&A形式を取り入れ、中学生へのメッセージ性を強く出し、キャリア教育にも配慮が見られました。

次に、「主体的・対話的で深い学び」の観点からは、巻末に集約された「生活の課題と実践」では、具体的な進め方と全分野に渡る豊富な実践例が記載され、それらを参考に、主体的に課題設定や課題解決ができるよう工夫されていました。各内容とも、目的に応じた参考例や応用例を数多く示すことで、製作や実習等が主体的に進められる工夫が見られました。また、各題材のまとめりと、「生活に生かそう」のコーナーで実生活へ向けた課題を提示し、生徒が生活の中から課題を見付け、主体的に解決できるよう工夫されていました。

3の項目「配列・分量」についての特色ですが、学習指導要領のA、B、Cの順に配列し、最後に「生活の課題と実践」が設けられています。内容A「家族・家庭」を家庭科学習の基盤と考え、ガイダンスも丁寧に扱っているのが特徴的です。今回の改訂で新しく入った「蒸し調理」と「高齢者との関わり」に関しましても中学生の視点から取り上げ、それぞれ頁を割いて大きく扱っていました。また、「地域との関わり」の中でLGBTについても触れており、社会の変化にも配慮した内容となっていました。

4の項目「表記・体裁」についての特色ですが、文字はユニバーサルデザインフォントで、カラーユニバーサル視点から誰もが見やすい色とデザインを使用しています。また、見開きを活用した実物大写真を始め、本文、写真や図、資料等の配置が工夫されており、非常にすっきりとした見やすい紙面構成となっていました。実習や製作の手順が大きく掲載され、左から右への横流れで統一されている点も紙面の見やすさとなっています。押さえない語句は、太ゴシックで目立つように表示されていました。

また、総頁数は3社の中で1番多いのですが、軽量化した用紙の使用により、1番薄く軽い仕上がりとなっています。

以上、3社の特徴についてご説明いたしました。それぞれに特徴や良さがありましたが、現場の先生方からは、教科書の軽さ、紙面の見やすさ、QRコードの使いやすさ、充実した記載内容、そして小学校との連携も考えると、「開隆堂」の教科書を使いたいとの声が多かったことを申し添えます。

以上で、ご報告を終わります。

<会長>

ありがとうございました。調査部会の説明及び報告をいただきましたが、家庭の報告に対して、ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

確認ですが、現在の小学校は「開隆堂」の教科書を使用していますか。

<家庭調査部長>

はい。現在、開隆堂の教科書を使用しております。

<委員>

はい。分かりました。

<会長>

その他にご質問などございますか。

<委員>

SDGsの関連性については、どのように掲載されていましたか。

<家庭調査部長>

一番色濃く掲載されていたのが、「開隆堂」の教科書でした。17の目標の紹介や、根本的な部分が様々な箇所で見られていました。

<委員>

「開隆堂」の教科書は、LGBTの記載があるということですが、内容ではなくその言葉が掲載されているということでしょうか。

<家庭調査部長>

はい。内容的な掲載ではなく、言葉として掲載されています。

<委員>

ありがとうございました。

<会長>

その他、ご質問等はいかがでしょうか。

それでは、家庭の調査について、大変お世話になりました。ありがとうございました。

この後、審議になりますので、一時待機をお願いいたします。

家庭調査部長退室

<会長>

それでは、調査部長からの報告をしていただき、いくつかご質問をしていただきました。調査部長からの報告では、小学校との連携を鑑みて「開隆堂」の教科書といった報告もありました。現在、中学校については、「東書」の教科書を使用しております。その点も含めて、協議をお願いいたします。

<会長>

何かご意見などありますでしょうか。

<委員>

S D G sについて家庭としては、食品ロスなどの視点が挙げられますが、そういった点が多く掲載されているのが、「開隆堂」の教科書といった印象がありました。

<会長>

基本的には、学習指導要領に準拠して検定を通っている教科書になりますので、項目や内容については全て網羅されております。その他にご意見はございますか。

<委員>

調査部会の報告としては、「開隆堂」の教科書についての報告がありましたが、現場の意見を尊重したいと思います。

<会長>

その他にご意見がなければ、調査部会からの報告における質疑や、委員からの意見などから「開

隆堂」の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、家庭については「開隆堂」の教科書を採択いたします。採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<委員>

ユニバーサルデザインの視点を採用とありますが、重視など別の表記はいかがでしょうか。

<会長>

調査報告書の「4 表記・体裁」の中にカラーユニバーサルデザインの視点といった表記がありましたので、その点を引用しているかと思います。

<委員>

ユニバーサルデザインの視点を採用しといった箇所についてですが、視点を除いた表記はいかがでしょうか。

<委員>

その表記の方が良いと思います。

<会長>

それでは、視点を除いた表記としたいと思います。

<委員>

3社といった記載がありますが、出版社名を記載しなくても分かりますか。

<会長>

令和元年度教科用図書検定済の調査対象となっている出版社が3社となっているため、そのような表記になっております。

理由書については、こちらでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。

調査報告書，教科用図書見本本配布

保健体育調査部長入室

<会長>

それでは，保健体育部会の報告をお願いします。

<保健体育調査部長>

中学校保健体育部会での調査内容について報告させていただきます。

保健体育部会では，「東京書籍」「大日本図書」「大修館」「学研」の4つの教科用図書について調査しました。その結果をまとめたものがお手元の資料になります。

その資料を基に，各教科書の特徴について簡単にご報告させていただきます。

最初に「東京書籍」です。授業の流れが5段階で構成されており，見通しをもって学習に取り組めるようになっています。また，学習課題が太字で分かりやすく示されていたり，問いかけを多く取り入れていたり，主体的・対話的で深い学びとするための工夫が見られます。さらに，デジタルコンテンツが豊富で，学習内容の理解がより深まるようになっていることも特徴の一つです。

次に「大日本図書」です。この教科書は，全ての単元において，左頁に本文の内容，右頁に図や資料に分けて掲載されています。「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」と授業の中心となる活動が具体的に示され，主体的・対話的で深い学びの学習につながる内容となっています。また，図やイラストを多く使用し，興味・関心を高めたり，知識を深められたりする工夫が見られます。

続いて「大修館」です。この教科書は，3段階の学習過程で構成されており，単元のまとめでは，観点別に確認問題を設定し，主体的な学習を促したり，評価につなげやすくしたりするなど工夫されています。また，各単元において，導入の発問や学習のまとめでは，意見交換ができるような工夫が見られ，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた内容となっています。

最後に「学研」です。この教科書は，各章の始まりに，学習の目的・学習の進め方，学習内容に関する情報が掲載されており，学習内容に興味関心をもち見通しをもって学習を進めることができる内容となっています。

また1時間の学習の流れが「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」の流れとなっており，各学習においても様々な学習方法が提示されており，生徒が主体的に学習に取り組めるよ

う工夫されています。

さらに、各章末には「探求しよう」「もっと広げる深める」項目があり、自らの学びをどう発展させるか、活用するか、など考え実践することで深い学びにつなげることができるようになっています。以上で報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございました。ご質問等がありましたらお願いします。

<委員>

感染症については、どの出版社も掲載されていると思いますが、より適切に書かれているのは、どの教科書になりますか。

<保健体育調査部長>

学習時間を多くとっているのが、「大修館」の教科書です。「大修館」の教科書134頁をご覧いただくと細かく書かれているのがお分かりいただけると思います。3時間分感染症について書かれており、マスクはなぜ着けるかなど、現在の問題に直面するなど考える工夫がされています。

<委員>

ありがとうございました。

<委員>

LGBT関係について取り上げている教科書はありましたか。

<保健体育調査部長>

LGBTについては、確認が取れておりませんが、新しい項目として他の項目の説明をさせていただきます。「東京書籍」の教科書、92頁に取り上げられている生活習慣病の起こり方では、COPDやQOLなどが掲載されておりました。他の教科書も巻末などに書かれておりますが、大きく書かれているのは、「東京書籍」の教科書でした。

<会長>

調査部会から4つの教科書について調査報告をしていただきましたが、調査部会の中で話題になった教科書はありましたか。

<保健体育調査部長>

いずれの教科書も主体的で深い学びについては、工夫されていました。これからの学習として

のデジタルコンテンツは、「東京書籍」がおおよそ50箇所ありその他はおおよそ30箇所ありました。調査部会では、「大修館」の教科書も話題になりましたが、まとめの問題では、3つの観点から形成されており授業を進める上で助かるといった意見がありました。「学研」の教科書では、活用するといった部分では「もって広げる」「深める」といった項目や、探求しようの項目が掲載されているので学びを生かす点で、非常に有効でないかといった意見がありました。

<会長>

ありがとうございます。その他、質問などありますか。特によろしいでしょうか。

それでは、短い調査期間の中、ありがとうございました。

この後審議になりますので、一時的に待機をお願いします。

保健体育調査部長退室

<会長>

それでは、審議に入ります。委員の中でご意見があればお願いします。

<委員>

調査部会からの報告では、「大修館」と「学研」の教科書について多く話題になったとありました。「学研」の教科書の方が説明文の中に具体性を持っている点が良いと感じました。生徒自身に自分の問題として考えさせるような課題設定がされている点が印象に残りました。資料についても他ではあまりないような脳の血流、あるいは、薬物に手を染めないように実習の場を設け、自分の言葉で誘いを断るような演習などがあり、全体として資料が豊富といった印象を持ちました。

<会長>

ありがとうございました。その他はいかがでしょうか。

<委員>

LGBTとSDGsに触れており、「学研」の教科書が良いといった印象があります。

<委員>

感染症については、どの教科書も同じように掲載されておりますので、「学研」の教科書が良いと思います。

<会長>

調査部会の報告の中でも、活用する視点や学びに生かすといった良い点の報告がありました。

「学研」の教科書が良いのではとの意見が多くありましたが、「学研」の教科書を採択するというところでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、保健体育については「学研」の教科書を採択いたします。
採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

4つの視点でまとめられております。
理由書については、こちらでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

調査報告書，教科用図書見本本配布

国語・書写調査部長入室

<会長>

それでは、国語・書写部会の報告をお願いします。

<国語・書写調査部長>

中学校国語部会での調査内容についてご報告いたします。

中学校国語部会では、「東京書籍」「三省堂」「教育出版」「光村図書」の4社について調査をいたしました。その結果をまとめたのがお手元の資料です。

それぞれの教科書に学習指導要領の教科目標達成のための様々な工夫や配慮がされておりました。特に、日常生活に必要な国語の知識とそれを正確に理解し、適切に表現するための資質・能力の育成、また、主体的・対話的で深い学びを実現していくための工夫という観点から、どのような特色が見られるかについて説明させていただきます。

まず「東京書籍」では、「言葉」を使って思考し、考えを深めるための構成になっています。「学びの扉」に漫画を使用し、日常生活の中での言葉の問題点を提起することで、教材に目的と意欲をもって取り組めるよう工夫されています。また、「てびき」に学習目標や方法、振り返り

が明示されており、「広がる言葉」や、基礎編の「学びを支える言葉の力」とも関連して言葉の学習を深められるように配慮されています。さらに、独自のキャラクターによる物語仕立ての「日本語探検」や、ゲームで学べる「文法の窓」などにおいて、生徒の興味関心を引き主体的な学びにつながる工夫がなされています。

次に「三省堂」では、各学年においてグループディスカッションを第1単元に置いており、対話的活動がスムーズに行えるように工夫されています。また、題材では、最近の著名な文学・文化人を起用しており、題材への興味関心を引き出し、読みの分野では、各教材末に「学びの道しるべ」が配置されており、無理なく読解が進められるように工夫されています。また、読みの単元の最初や巻末にある「読み方を学ぼう」によって正確な読みや深い読みができるように配慮されています。

次に、「教育出版」では、各領域で扱う話題や題材が、国連のSDGsの視点で選定されており、各学年に位置付けられています。また、教材ごとに示された「学びナビ」によって、学習活動の手順と重点、また学習の助けとなるヒントを明示して、見通しをもって主体的に学習を進められるように工夫されています。「学びのチャレンジ」を設定し、文章や資料を活用しながら、思考力・判断力・表現力を高めていくための教材がふんだんに掲載され、対話的な学習につながるように構成されています。

次に、「光村図書」では、「学習の窓」を設けることで、学習を通して身に付けたい力のポイントが明確になっているため、何を学び、何ができるようになればいいのかを意識しながら、生徒が主体的に学習を進めることができるようになっています。また、二次元コードを随所に提示することで、補助的な資料を閲覧できたり、古典作品の音読を確認できたりと、理解を深めるための工夫がなされています。読み教材の脚注に、関連のある本を取り上げたり、巻末資料に他教科や社会生活に生かせる情報をまとめて提示したりと、学習の広がり意識した構成となっています。

続きまして、調査をしていく中で特に話題となった2社「東書」と「光村」の教科用図書についてさらにご説明させていただきます。特に新しい学習指導要領でポイントとなる点について説明いたします。

主体的・対話的で深い学びの実現のための工夫についてです。

「東書」ですが、学習内容と関連づけた挿絵や漫画、ゲーム形式を取り入れ、生徒の興味関心を引き出しながら学習を進めていけるよう工夫されています。また、学習した教材をもとに、関連した教材を配置し読み比べたり、読み広めたりできるよう、発展的・補充的な課題解決学習にも取り組めるよう配慮されていました。

次に、「光村」ですが、学習指導要領で求められている、思考力、判断力、表現力の関連一覧表が巻頭に見開きで示され、また、「思考の地図」として思考の進め方を明確に示して、教材での学習を通して、生徒がより見通しをもって学習が進められるよう配慮されています。

最後に、生徒が意欲をもって学ぶことや、個への対応の配慮として、「東書」では、Dコード、「光村」では二次元コードと表記して、いわゆるQRコードを使つての学習に取り組めるよう工

夫されています。他社でも取り入れられていましたが、この2社は、内容が非常に充実していました。

「東書」においては、巻末に内容が一覧表で掲載され、まとめた形になっていて、練習問題なども別枠で入っていました。また、「光村」では、教科書の単元の中にコードが掲載されていて、2社とも朗読の音声や、作品の解説など授業や個別学習を進めていく上で効果的な内容となっていました。

以上のような当調査部会としましては、この2社の教科書はそれぞれ優れた点が多くあり、独自の工夫や配慮がされているとの結論となりました。

以上で、中学校国語科についての説明を終わりにします。

続いて、「書写」についてご説明いたします。

書写は、「東京書籍」「三省堂」「教育出版」「光村図書」の4社について調査をいたしました。その結果をまとめたのがお手元の資料です。

学習指導要領の教科の目標を達成するための観点について各社の特色を申し上げます。

はじめに、「東京書籍」です。文字を正しく整えて速く書くためのポイントを「書写のかぎ」と名付け、各教材に示すことで、さまざまな文字に生かせるように構成されています。学習過程に、課題発見や振り返りをする機会を設けることで、主体的・対話的な学習になるように配慮されています。

また、ウェブコンテンツを利用して資料が提示でき、教材は、学校行事や年中行事、国語の教科書に掲載されている古典教材と関連付けられています。教科書は、ワイド紙面で構成されています。また、カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントが用いられ生徒の個人差に配慮されています。

次に、「三省堂」です。毛筆の学習後に、硬筆で練習する項が設けられ、毛筆の学習が硬筆に生かされるように構成されています。文字の書き方のポイントを考えたり、学習したことを言葉でまとめたりすることを通して、対話的な学習を促しています。また、姿勢や筆の運び方、筆の持ち方についてウェブコンテンツを利用した資料を提示できます。教材の文字が1頁分を使用して示されており、文字の字形が捉えやすくなっています。また、カラーユニバーサルデザインが採用されており、生徒の色覚特性に配慮されています。

次に、「教育出版」です。「まとめ書きについて」と、「筆使いについて」において、それぞれ話合いのポイントが示されており、話合いをするうえで明確に観点をもって活動することができるよう配慮されています。また、教科書の横幅を広くとっていることにより、字間や余白のバランスを捉えやすくなっています。毛筆で学習した内容を硬筆に生かす練習のための頁数が多く、普段の生活に生かすことを意識した構成となっています。

最後に、「光村図書」です。別冊として「書写ブック」といった練習シートをまとめたものがあり、毛筆で学習したことを硬筆で振り返るための練習帳として利用できるよう工夫されています。

また、毛筆の筆使いとして「始筆」から「終筆」まで実際の筆の動きと線画の様子が写真で示

されていることで、自分の筆の動きと比較しながら、生徒が練習しやすいよう配慮されています。

続きまして、調査をしていく中で、特に話題となった2社「東書」と「光村」の教科書についてさらに説明をさせていただきます。

「東書」では、書写の学習と日常生活を結び付けた構成を多く用いることで、日常との結び付きを意識させながら、書写の学習が進めていけるよう多くの場面で工夫されていて、学習した内容が、生活の中にどのように生きて働いていくのかを具体的な事例を用いて掲げられているという特徴があります。

一方、「光村」では、特に毛筆の筆遣いについての写真を含めた資料がとて多く掲載されて、特に穂先の筆の運び方については、生徒が毛筆学習を進めていくうえで、大変、参考となるような工夫がなされていました。

さらに、特徴として、「東書」では、教科書の大きさをひと回り大きくして、より半紙に近い文字の配置や余白の割合などを捉えやすいような工夫や、大きくなった分を利用して、帯を付けてインデックスや書き方のポイントを示すなどの工夫がされています。一方、「光村」は、他3社が学年ごとの指導内容で構成されているのに対し、学年ごとではなく、毛筆、硬筆と分けて、構成されており、指導内容の系統性がわかりやすく示されています。

どちらの教科書も優れた細かな配慮・工夫が見られます。また、どちらの教科書も国語の教科書とリンクしている作品等を取り扱っているため、採択にあたっては、同一社のものが望ましいのではという意見が出ていたことを申し添えたいと思います。以上で書写に関する説明を終わりにします。

<会長>

ありがとうございました。国語、書写の報告に対して、ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

国語と書写の教科書のリンクしている場所は、どの部分になりますか。

<国語・書写調査部長>

一例として、古典の学習についてです。国語で学習した教材についてですが、書写でも一部採用している部分があり、そういった点に関連している箇所となります。

<委員>

ありがとうございました。

<会長>

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、調査活動ありがとうございました。

審議になりますので、一度待機をお願いいたします。

国語・書写調査部長退室

<会長>

それでは、審議に入ります。国語調査部会の報告では、「東京書籍」と「光村図書」について多くの意見をいただき、書写については、それぞれの特色を報告していただきましたが、委員の中でご意見があればお願いします。

<委員>

現在、国語と書写について同一の出版社の教科書を採択していますが、現在と同じように同一の出版社の教科書とするかどうかを決めなければ最終的な判断ができないと思います。私の意見としては、調査部会からの報告にありましたが、国語と書写について同一の出版社の教科書を選定したほうが良いと感じました。

<会長>

その他いかがでしょうか。

<委員>

調査部会から、「東京書籍」と「光村図書」について多く報告をしていただきましたが、内容を読み、「東京書籍」を薦めたいと思います。題材の配列が難易度の点から適切であると思いましたし、題材ごとに学びのポイントや進め方が記されており、プラスαの情報も大変豊富であると感じました。各単元の目標や流れが明記されているのもよいと思います。書くことの指導にも大変手厚い印象を持ちましたし、書いた内容をスピーチに繋げるという構成も自然であると考えます。また、レポートの書き方など実践的な力を付けようとする意図がはっきりしており効果的であると思われます。一方で、豊富な情報や、かなり詳細に示されている学習の進め方などが、指導する上で逆に妨げになるのではないかという心配もありますが、生徒が自分で学びを進めていけるといった良さもありますので、総合的に見て4社の中では一番使いやすいのではないかと思います。

<会長>

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

委員の意見では、「東京書籍」に対する意見が多くありました。国語、書写について「東京書籍」の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、国語、書写については「東書」の教科書を採択いたします。
採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

ご意見などありましたら、お願いします。
こちらの理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

調査報告書，教科用図書見本本配布 社会調査部長入室

<会長>

それでは，社会部会の報告をお願いします。

<社会調査部長>

社会科部会での調査内容について報告させていただきます。

まず始めに「地理的分野」では4社の教科書について調査をし，その結果をまとめたものがお手元にある資料です。その資料を基に，各教科書の良い点について，簡単にご報告させていただきます。

1社目の，「東京書籍」ですが，教科書の大きさがA B判で，資料などが余裕を持った大きさでつくられています。また，巻末に，用語解説・統計資料が掲載されており，生徒自身が自分から学習を進められるように配慮されているのが特徴です。

2社目の，「教育出版」ですが，見開きの頁の最初に，本時の学習の中心となる資料が大きめに掲載され，そこから，本時の学習を概観したり，学習課題をつくったりと，ねらいをもった構成になっています。

3社目の，「帝国書院」ですが，世界や日本の諸地域の学習の後に，学習のまとめで基礎基本の定着とテーマに基づいたまとめができるように工夫されています。また，さらに「深めよう」のコーナーで，興味関心を高めて発展的な学習ができるように配慮されています。

4社目の、「日文」ですが、単元の導入は、地図・グラフ・写真等の各種資料で構成し、地域を概観し、資料から様々な読み取りができ、興味関心を高めるよう工夫されているのが特徴です。

続きまして、調査をしていく中で、話題になった2社の教科書について、さらに説明をさせていただきます。

1社目の「帝国書院」ですが、学習指導要領で重視されている「地理的な見方・考え方」を働かせながら、地理的特色が捉えやすいように構成されており、その特色を整理するための頁が設けられ説明してあります。生徒が主体的に学習を行うための教材や、学習を掘り下げるための教材、学習のまとめの教材と様々なシンキングツールを取り上げ、地域的特色を捉え単元全体を通して主体的・対話的で深い学びが実現できるように構成されています。

地域の在り方の章では、日本の諸地域を振り返り各地域の課題を把握し、課題解決の構想をし、それを発信する構成になっています。SDGsの17の目標については、表の表紙裏にカラーで解説されており、興味・関心を高める工夫がなされています。各見開きは、本文、資料、側注などが統一されたレイアウトで配置され、紙面の使い方が整理され、学習内容が定着するよう、導入、学習課題、本文、確認しよう・説明しようという展開で統一・構造化されています。本文と資料の関連する箇所には、図・写真や他の頁への参照指示が記載され、効率よく資料の活用ができるようになっております。また、写真や図版などが大判で豊富に掲載されています。

2社目の「東京書籍」ですが、小学校で学習した用語等が掲載されており、小学校との学びの接続を図った構成に特色がみられます。また、各節における最初の頁の見開きで、生徒の興味・関心を引き出す導入資料が掲載され、読み取るコーナー・考えるコーナーが設けられており学習にスムーズに入れるようになっていきます。知識・技能を習得するための工夫として、興味・関心を引き出す導入資料、学習課題、本文、学習課題を解決するチェック&トライの流れで構造化されており、学習内容の定着化が図られる工夫が見られます。また学習指導要領に示された、集める、読み取る、まとめる、の側面から、技能を活用するコーナーを設けてあり、資料を活用する力が高められるようになっていきます。

また、歴史・公民の分野の関連頁に直接リンクした二次元コードが付いており、インターネットを使って関連する頁の教科書紙面を見ることができるようになっています。また、他教科と特に関連が強い内容にはDマークコンテンツが付いていて、同じくインターネットで他教科書紙面を見ることができるという特徴があります。

主体的に学習に取り組む態度を習得するための配慮として、小集団での参加型学習を行う「みんなでチャレンジ」コーナーが設けられ、対話的な活動を効果的に実践できるようになっています。

地域の在り方の章では、SDGsの17の目標について、地球規模の課題・日本の地域的な課題が整理されており、身近な地域から優先して解決すべき課題が具体的に示されています。

世界の各州の導入部分には、イラストを使用した地図や自然や生活に関する写真が掲載され、日本の各地方の導入部分には、各地方の探求課題に関連した写真が掲載されており、生徒が学習する地域をイメージしやすい工夫がなされています。

以上で、地理的分野の報告を終了させていただきます。

続きまして、歴史的分野では7社の教科書について調査をし、その結果をまとめたものがお手元にある資料です。その資料を基に、各教科書の良い点について、簡単にご報告させていただきます。

各社とも、章ごとに見開き2頁を割いて、学習する時代の様子をイラストで紹介したり、年表を掲載して見通しをもって学習できるよう工夫がみられました。

さらに、コラムを通して、歴史に関心をもち歴史上の人物を含めた歴史に関する事象を深く理解できるとともに、発展的に学習できるような配慮がみられました。

また、1時間ごとの学習課題が明確に掲載されていて、課題解決学習を進める手立てが講じられています。

続きまして、調査をしていく中で、話題になった2社の教科書について、さらに説明をさせていただきます。

まず、「帝国書院」ですが、章の問い、節の問い、見開きの問い、といった問いが細かく設定されており、単元を通した課題解決学習を進めやすい構成となっています。

「タイムトラベル」のコーナーには、見開きの頁にイラストを大きく掲載しており、時代を比較したり考察したりするための工夫がみられました。

章末の「章の学習を振り返ろう」では、見開きの頁で構成しており、左頁では年表で重要語句を押さえる内容で構成されていて、右頁では、自分の考えを整理し、自分の言葉で説明する内容で構成されています。歴史の理解を深めることができるように、多様な立場や異なる見方を示す資料や人物コラム、未来に向けて等を提示することにより、多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されています。

また、「確認しよう」や「説明しよう」などの資料等において、歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色について考察することができるよう配慮されており、近世や近代に多くの頁を充て、武家政権の展開や、近代国家の歩みと二度の世界大戦について学習が深まるような工夫が見られます。見開きの頁の左下に、小学校や他分野との関連について示してあります。人物索引では記号を使い、その人物がどのような功績を持つ人物なのかを分離して示しています。また、すべての人物にルビをつけています。

続きまして、「東京書籍」ですが、各章の始めに、必ず小学校で学習したことを年表や図等を通して振り返り、探求のステップを通して探求活動の課題解決へ繋がるような構成に工夫が見られます。巻頭で、歴史上の出来事をイラストで掲載し、小学校からの歴史学習を想起しながら、日本の歴史の大きな流れを大観できるようにしているところに工夫がみられます。各時代の分量がバランスよく取り上げられており、各時代の特色を大観して捉え、多面的・多角的に考察し表現できるような特色がみられます。

単元末での時代の特色を捉える学習では、単元ごとにXチャート、ステップチャート、マトリックスの活用などの多様なまとめ方で構成されており、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫がみられます。

各頁や「もっと歴史」の頁にて、社会的事象等について調べまとめる技能を習得するため、スキル・アップコーナーが設定してあり、情報を収集したり、読み取って効果的にまとめたりする力を養えるような工夫がみられます。

本文の学習内容を基に、異なる視点や立場で捉えるために、「みんなでチャレンジ」のコーナーを設けて、対話的な学習を促す配慮がされています。

また、年表スケールが各頁に掲載してあり、学習している時代や年代を確認しやすくなっています。分野関連マーク、教科関連マークを取り入れ、他分野・他教科との関わりを示しています。

続きまして公民的分野では、6社の教科書について調査をし、その結果をまとめたものがお手元にある資料です。その資料を基にご報告させていただきます。

各社とも、主体的・対話的で深い学びを実現するために配慮された構成になっています。特に、各章の導入の活動とまとめの活動に繋がりをもたせており、生徒が単元を通じて学びを深められるように工夫されています。

さらに、グループでの協働的な活動を通して、社会的事象を多面的・多角的に考察できるよう、シンキングツールの紹介や見方・考え方を働かせるための手立てが講じられています。

続きまして、調査していく中で、話題になった2社の教科書について、さらに説明をさせていただきます。

まず、「東京書籍」ですが、各章の導入で、単元を貫く課題をつかむために導入の活動が設けられています。章末では、まとめの活動の頁で、学習内容を活用した問題が設定されており、主体的・対話的な学習活動を促すように工夫されています。

毎時間ごとに、深い学びを効果的に実現するための工夫として、見方・考え方の項目が設けられており、以前学習した内容の活用や社会的事象を比較できるよう配慮されています。

毎時間ごとの学習の振り返りでは、まとめが2つ設定されています。1つは「チェック」という項目で学習内容の深化を促しています。もう1つの「トライ」という項目で、公民的観点や文中の語句を用いて説明する活動により、言語活動の充実が図られる構成となっています。

「みんなでチャレンジ」という項目では、グループでの協働的な活動が設けられており、対話的に活動することで、社会的事象を、多面的・多角的に考えられるように工夫されています。本文頁の資料に関して、集める、調べる、読み取る、考えるという課題が随時設定されており、課題解決のための探究活動が促される構成となっています。各章の初めに小学校の社会科で習った言葉の項目があり、既習事項の関連を図っています。

また、小単元数は76時間で構成されており、探求活動の課題解決をより深められる構成に工夫がみられます。

続きまして、「帝国書院」ですが、各章の導入では、実社会に興味を持たせる大きなイラストを使い、主体的な学びを引き出す工夫が見られます。

章末では、「章の学習を振り返ろう」の頁で、主体的・対話的に章の問いを振り返ることで、深い学びにつなげられるように工夫されています。

小単元ごとに、見開き左上に大きな資料が1つとその資料を活用する課題が1つ提示されてお

り、学習内容に興味を持たせ主体的な学びを引き出す工夫が見られます。

小单元ごとの学習の振り返りでは、まとめが2つ設定されています。1つは「確認しよう」という項目で、基礎的・基本的な知識の習得を促し、もう1つは「説明しよう」という項目で、学習したことをまとめたり、発展させたりすることで、生徒の表現力、思考力を育成できる構成になっています。

「アクティブ公民」という項目で、現実の社会で起こりうる事例と多角的・多面的な考えが提示されており、対話的で深い学びを実現する工夫が見られます。

「技能をみがく」は、発表や議論の仕方を紹介し、主体的・対話的な学習活動ができるようになっています。

側注や参照頁、写真資料、イラストなど、分かりやすく見やすい工夫がされた表記になっています。

また、小单元数は70時間で構成されており、他の教科書より少なく、発展課題に取り組む時間が考慮されています。これらの特色がありました。

以上で、公民的分野の報告を終了させていただきます。

続きまして、地図では2社の教科書について調査をし、その結果をまとめたものがお手元にある資料です。その資料を基に、2社の地図の良い点について、ご報告させていただきます。

1社目の「東京書籍」ですが、縦向きの地図を効果的に使い、大陸や州を同縮尺にすることで、大陸部分を中心に地球儀の代わりに使用できるよう工夫されています。

また、資料の見方やポイントを示したキャラクターの吹き出しが設けられており、資料を読み取る力を高める工夫が見られます。「東京書籍」の教科書の内容に準じた資料・テーマ資料が豊富に掲載されており、効率的に学習を進められるように配慮されています。

また、「ジャンプ」の項目を参考に複数の資料を関連づけて、多面的・多角的に考察できるように工夫されています。

巻末に掲載されている日本の周辺地図上に、島の写真とともに領土問題について詳しい解説を掲載しています。一般図では土地の高低が細かく色分けされていたり、淡い色使いによって文字情報が見やすくなっていたりと、工夫されています。資料が探しやすい資料索引を設け、地形や気候、人口といった分類ごとに資料を探せるよう工夫されています。

Dマークがついた頁では、ICTを活用した学習や白地図がダウンロードできるようになっています。また、A B判の見やすく印象的な紙面構成で、大きめの資料が豊富に掲載されています。

2社目の「帝国書院」ですが、見開きの頁を使って、世界地図、日本地図をそれぞれ取り上げ、地図帳の使い方について説明し、地理学習への関心を高める工夫が見られます。

題解決学習を進める上で、写真やイラストなど多種多様な資料が掲載されており、地理的認識や地域的特色を理解する上での配慮が見られます。

感覚的に地形を捉えることができるようにイラスト入りの鳥瞰図が随所に掲載されるなどの理解深化のための工夫が見られます。

地図活用を表示し、読図のポイントを文章で示し、基礎的な知識が習得できるような工夫が見

られます。日本とのつながりを取り上げた資料に日本との結びつきのマークが付けられ、空間的相互依存作用や地域に関わる視点について意識付けができるような工夫が見られます。

日本の領土については、地方ごとに掲載した一般図の中に写真や解説とともに掲載しています。北方領土については、年代ごとの国境の変遷が掲載されているとともに、同縮尺の沖縄本島を併記して、大きさや位置関係を捉える工夫が見られます。

一般図には、必ず高低や土地利用を示すスケールが表示されており、高低は濃淡がはっきりした色使いになっているため、スケールでの確認とあわせて、地理的認識が深まるよう工夫されています。さらに主題図には、土地利用がわかりやすく色分けがされており、産業との関連で地理的特色が読み取れるような工夫が見られます。

一般図の後に、様々な主題図を掲載する構成になっています。課題解決学習を進める上で、写真やイラストなど多種多様な資料が掲載されており、地理的認識や地域的特色を理解する上での配慮が見られます。二次元コードをタブレット・パソコンで読み取り、コンテンツが見られるような工夫が見られます。以上で、地図の報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございました。ご質問等がございましたらお願いいたします。

調査部会からの報告では、「東京書籍」と「帝国書院」について詳しく報告をしていただきました。

<委員>

地図についてですが、2社を比べると、色使いや文字などがだいぶ違ってきます。今までは、「帝国書院」の教科書を使用しているので、濃い色使いになっているかと思いますが、その方が見やすいですか。

<社会調査部長>

見やすいと思います。「東京書籍」は、ユニバーサルデザインを意識していると思いますが、「帝国書院」の濃い色の方が見やすく感じます。

<会長>

その他の分野などで、ご意見などあればお願いします。

それでは、調査活動ありがとうございました。

社会調査部長退室

<会長>

それでは、地理、歴史、公民、地図について調査部長からの報告をしていただきました。ご意

見などあればお願いします。

<委員>

地理、歴史、公民については、「東京書籍」の教科書が良いと感じました。理由としては、思考力や判断力、表現力を高めるまとめの活動として思考ツールを使いまとめるようにしています。チャートなどを使用し、まとめる活動を重視している点が良いと思いました。

地図については、「帝国書院」の教科書の方が見やすい印象があります。

<会長>

地理、歴史、公民については、思考力、判断力、表現力を高めるまとめが統一されているといった意見がありましたが、いかがでしょうか。

地理、歴史、公民については、「東京書籍」の教科書、地図については、「帝国書院」の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書について検討をお願いします。

調査部会からの報告を参考にした内容でまとめられておりますが、特にご意見などよろしいでしょうか。

採択理由書（案）配付

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、午前の部が終了となります。午後の部は、13時より再開いたしますので、よろしくお願いいたします。

調査報告書、教科用図書見本本配布

数学調査部長入室

<会長>

午後の部を再開いたします。数学部会の調査報告をお願いします。

<数学調査部長>

数学部会での調査内容についてご報告させていただきます。

数学部会では7社の教科書について調査をし、その結果をまとめたものがお手元の資料です。その資料を基に、各教科書の特徴についてご報告させていただきます。

「東京書籍」の特徴は次の3点になります。

1年生の教科書、119頁あるいは204頁をご覧ください。1点目は、中学生のキャラクター達が対話的に発する言葉や、ルーペ記号で記された文章が、数学の問題を解決するための見方や考え方となっていることです。日々の授業を通して、見方や考え方を養い、事象を統合・発展的に考察する力が養えるように配慮されています。

2点目は、222頁をご覧ください。データの活用領域の学習において、節の導入で取り上げた題材を、節全体を通して、考察の対象としていることです。新学習指導要領では、データを無目的に扱うのではなく、活用する目的を大事にしています。目的に応じてデータを整理することや多面的に見ることを通して傾向を読み取るという、データを活用する本来のねらいをしっかりと押さえた構成となっています。

3点目は、章末問題についてです。58頁あるいは184頁をご覧ください。問題A、問題Bにレベル分けされ、問題Aは基本問題、問題Bは応用・活用問題となっています。また、巻末に解答も掲載され、生徒一人一人の習熟の程度に応じて、取り組むことができるように配慮されています。以上が、「東京書籍」の特徴となります。

「大日本図書」の特徴は次の3点になります。3年生の教科書37頁あるいは67頁をご覧ください。

1点目は、「学びにプラス」というコーナーです。学習した内容をさらに深めたり広げたりする問題や話題が掲載されています。数学を活用して事象を数理的に捉えたり、数学的に処理したりしながら、問題を解決していく力が伸ばせるように配慮されています。

2点目は、58頁、60頁をご覧ください。考え方を比べたり話し合ったりする場面を多く取り入れ、対話的な学びが展開できるように配慮されていることです。さらに、練習課題においては、伝えよう、判断しようという問題が用意されており、どう判断したか、どのように考えたかを生徒同士が述べ合うことで、対話的な学びが展開できるような配慮がされています。

3点目は、69頁、93頁をご覧ください。各単元の最後に（単元名）の利用が設定されていることです。学習したことを日常生活や社会の事象に活用したり、応用問題に取り組んだりする時間を、年間指導計画内で確保できるように配慮されています。

以上が、「大日本図書」の特徴となります。

「学校図書」の特徴は次の3点になります。1年生の教科書4頁、47頁をご覧ください。

1点目は、頁右端に見方・考え方という枠囲みが設けられていることです。帰納、演繹、類推

など10種類の見方・考え方が記されております。その頁での学習で触れることのできる数学的な見方や考え方を顕在化し、整理することで、そのあとの学習場面において、数学的な見方や考え方を生かし、統合的・発展的に問題を考察する力が養えるように配慮されています。

2点目は、93頁、125頁をご覧ください。役立つ数学や深めようにより、身の回りで数学が役立っている場面を取り上げているところです。数学を日常生活や社会的な事象、あるいは数学の世界の中で活用する問題を通して、数学の有用性を体験させるとともに、数学の学習に主体的に取り組む生徒を育てることへの配慮がされています。

3点目は、47頁、109頁をご覧ください。「正しいかな？」という、生徒に判断を求める形式の課題設定があることです。そのことにより、生徒に判断を求めるとともに、そのように判断した理由を、数学的な表現を用いて説明する場が生まれます。対話的な学びが展開できるように配慮されています。

「教育出版」の特徴は次の3点になります。1年生の教科書11頁、29頁をご覧ください。

1点目は、巻頭頁で13に分類された数学的な考え方が、各頁内の関連する部分に記載されていることです。具体的にどのような考え方が使われているか、生徒に分かりやすく伝わると共に、指導者にも、数学的な考え方を意図して指導できるように配慮されています。新学習指導要領では、各教科に特有の見方・考え方を働かせて問題を考察することが、深い学びを実現する上では重要であると述べられております。この点において、具現化がよく図られた教科書といえます。

2点目は、22頁、68頁をご覧ください。既習事項とのつながりを強く意識して作られていることです。単元に入る前の学習をする際には、これから始まる新しい単元の中で必要となる、基礎的・基本的な知識・理解をA4・1頁に集約してあります。巻末にある学びのマップとリンクするように頁数が書き加えられ、生徒一人一人の習熟度に応じて教科書を活用できるように配慮されています。

3点目は、104頁、132頁をご覧ください。章の導入に当たる「Let's Try」の問題が面白く、数学的活動の楽しさや数学のよさを感じる事ができる内容となっていることです。その問題に対する答えやまとめは章末に掲載されており、章での学習を通して解決できる構成となっています。単元を通して関心・意欲を持続させ、主体的な学習活動が展開できるように配慮されています。

「啓林館」の特徴は次の3点になります。1年生の教科書56頁、86頁をご覧ください。

1点目は、単元の導入問題はストーリーがあり、生徒にとって数学を使う場面がイメージしやすい点です。また、導入時に話し合おうという活動を設定し、結果を予想する活動が取り入れられています。数学が苦手な生徒でも答えやすい内容となっており、生徒の関心・意欲を高め、主体的な学習が展開できるように配慮されています。

2点目は、52頁、82頁をご覧ください。章末問題が、学びをたしかめよう（基本）と学びをみにつけよう（応用）に分かれていて、習熟の程度に応じた学びが展開できるように配慮されている点です。

3点目は、27頁から56頁をご覧ください。巻末にある学びに生かそうでは、他の教科や領

域に関連した問題や、数学が活用されている日常生活や社会の事象を取り上げています。これまでに身に付けた思考力や判断力、表現力を用いて、新たに学んだ知識・技能を活用することができるように配慮されています。

「数研出版」の特徴は次の4点になります。1年生の教科書85頁、104頁をご覧ください。

1点目は、学習の導入課題が問題解決型になっており、事象を数理的に捉えたり、数学的に処理したりしながら問題を解決する力を養う学習に適していることです。単なる求答式の問題だけではなく、「正しいといえるでしょうか」、「どのように考えたでしょうか」、「どのような工夫をすればよいでしょうか」、という問いかけは、思考力や判断力、表現力などの力を育成する授業づくりへの配慮がされています。

2点目は、19頁、21頁をご覧ください。中学生のキャラクターが会話形式で学習を進めており、対話的な学びを充実させることへの配慮がなされていることです。キャラクターが話合いの視点を与えてくれることで、事象を数理的に捉えたり、数学の問題を見いだしたりしながら問題を解決していくことが容易になります。また、付属の研究ノートを活用することで、これまでの学習を振り返ったり、深い学びに結び付けたりできるようにも配慮されています。

3点目は、25頁、37頁をご覧ください。節のまとまりごとに確認問題が用意されており、スモールステップで即時確認ができる構成となっています。また、単元末の章末問題は、A問題、B問題と段階が分かれていますので、習熟の程度に応じて生徒が取り組めるように配慮されています。

「日本文教出版」の特徴は次の3点になります。1年生の教科書145頁、157頁をご覧ください。

1点目は、頁右端に緑色の枠囲みで、大切な見方・考え方が記載されていることです。事象を数理的に捉えたり、数学的に処理したりしながら、問題を解決していく上で大切となる数学的な見方・考え方が養えるように配慮されています。これは新学習指導要領がめざす深い学びにも大いに関係するところでもあり、これらを押さえた教師の意図的な発問を通して、対話的で深い学びが展開できるように配慮されています。数学を活用して論理的に考察する力を身に付けることにもつながります。

2点目は、30頁、80頁をご覧ください。各頁の構成が、本時の学習の出発点となる問題、本時のめあて、内容を理解するための具体例、そしてより内容を理解するための練習問題という構成になっており、誰でも授業展開がスムーズにいくように配慮されています。例題と練習問題がセットになって配列されているので、生徒が解法を真似したり見て学んだりするのに役に立ちます。また、証明問題では穴埋め問題を設定し、論証に不安を抱える生徒も主体的に取り組めるような配慮がされています。

3点目は、257頁をご覧ください。巻末に日常生活や社会的な事象から取り上げた問題が掲載され、生徒が興味を持って主体的に取り組む事ができるように配慮されていることです。数学の世界内でも、あるいは数学の世界以外でも、数学が活用されていることを実感できると共に、数学を日常生活に活用しようとする態度を育てることへの配慮がなされています。

以上が、調査活動をした7社の特徴となります。

続きまして、調査をしていく中で、特に話題になった2社の教科書について、さらに説明をさせていただきます。

はじめは、「東京書籍」です。1年生の教科書90頁をご覧ください。

1点目ですが、単元や節の導入は、日常生活や社会の事象から話題が取り上げられています。問題場面の中の事象を、数理的に捉えたり、数学的に処理したりしながら、問題を解決していく構成となっています。また、場面を捉えやすくするための工夫として、イラストや図が大きく描かれています。新しい単元の学習に対する生徒の興味・関心を高め、主体的な学びが展開できるように配慮されています。

2点目ですが、44頁、173頁をご覧ください。緑の枠で囲われた、「考えてみよう」「調べてみよう」「説明してみよう」は、そのまま授業の導入での課題とすることができます。指導経験の少ない若手の先生等にとっては、大きな助けとなります。説明してみましょう、どんなことが言えるでしょうか、～としてもよいでしょうか、等の文末表現は、生徒の思考力や判断力、表現力に訴える問題形式となっていて、それらの力を養うとともに、主体的な学びにもつながるように配慮されています。

3点目ですが、53頁、171頁をご覧ください。その時間に触れることのできる数学的な見方・考え方を、関係する頁には、ルーペ記号で簡潔に記してあります。これはその時間の学習を深い学びにする上で、たいへん重要となります。さらに巻末の大切にしたい見方・考え方は、これまでの学びを振り返り、今後も数学の学習や日常生活で、どのように事象を数理的に捉えて、どのように数学的処理を進め、問題を解決していけばよいかを確認することができます。ルーペ記号や、巻末の大切にしたい見方・考え方は、今後の学習において、生徒が積極的に見方・考え方を使っていけるように配慮されています。

4点目ですが、133頁、174頁をご覧ください。明るい色調で色見も優しいです。グラフや立体図形は、線の色や太さの違い、陰影を生かし、とても見やすくできています。これは、生徒が学習を進めていく上で、大きな助けとなります。また、文章については、行間にゆとりをもたせたり、重要な事項は、文字のポイントを大きくしたりフォントを変えたりする工夫が見られ、文字が読みやすくなるように配慮されています。

以上が「東京書籍」の特に優れていた4点となります。

続いて、「啓林館」です。同じく、特に優れている点を4点申し上げます。

1点目ですが、表紙A4縦は通常の授業で使用する教科書として、裏表紙A4横は生徒自らが自分の興味・関心に基づいて、数学の学習に取り組む際に使用する教科書という構成になっているのが、他社にはない大きな特徴です。

裏表紙からの「力をつけよう」は、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることを目的とした生徒たちが使用します。

また、「学びを生かそう」では、思考力や判断力・表現力など、数学的思考力の確実な習得を図ることを目的とした生徒が、それぞれの目的に応じて使うことができる体裁は、他社にはない

特徴です。文部科学省の掲げる、「生徒一人一人の能力や適性に応じて、個別最適化された学びの実現」に通じるところがあります。生徒一人一人の「学びに向かう力」の育成にも有効に活用できると考えます。

2点目ですが、102頁、229頁をご覧ください。「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」という課題を設定し、思考力や表現力を養うとともに、言語活動を中心とした対話的な学びが展開されるように配慮されています。また、応用問題や例題がパターンごとによく整理され、分量も適切です。例題に付けられたタイトルが的確に内容を示していて見やすく、生徒が学習を進めていく上での助けとなります。予習を進めたり復習として教科書を使って振り返ったりする際の、生徒の使いやすさや教師の扱いやすさに配慮した体裁となっています。

3点目ですが、14頁、22頁をご覧ください。脚注のループ記号には、その頁で用いられる、数学的な見方・考え方が記載されています。統合・発展的に考察したり、論理的に考察したりする力を養えるように配慮がされています。授業を深い学びにする上で、大きな手助けとなります。

4点目ですが、126頁、135頁をご覧ください。式やグラフ、図形において、大事な部分に生徒の視点が自然に集まるよう、色使いに配慮がなされた表記となっています。文字は形や大きさが見やすく、色合いも落ち着いており、誰でも使いやすいように配慮されています。重要な定理や基礎的・基本的な知識については、見やすいように枠に入った記載となっており、授業での既習事項の確認や生徒による振り返りが容易になるように配慮されています。

以上で、調査部会からの報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございました。ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

それぞれの教科書に沿って説明いただき、ありがとうございました。報告していただいた中で「大日本図書」の教科書が3年生でしたが、なにか意図的な理由はありますか。

<数学調査部長>

「大日本図書」の特徴がよく書かれていたのが、3年生の教科書に多いため報告させていただきました。

<委員>

同じ学年の教科書を使い特色などの報告をしていただくと更に分かりやすかったと思います。「東京書籍」と「啓林館」について、詳しく報告をしていただきましたが、プログラミングに関する部分はどうか。

<数学調査部長>

どちらの教科書もプログラミングについて配慮されて作られております。QRコードなどもありICTの授業でも役立てられるような構成になっています。

<委員>

プログラミングに関する部分では、特に差はあまりなかったですか。

<数学調査部長>

はい。ございませんでした。

<委員>

他社の教科書についてはどうですか。

<数学調査部長>

他社の教科書についても配慮がされておりました。

<会長>

その他にありますか。

それでは、調査活動ありがとうございました。この後、審議になりますので、一時待機をお願いいたします。

数学調査部長退室

<会長>

それでは、調査部長から7社の教科書について頁数も示して報告をしていただきましたが、最後に「東京書籍」と「啓林館」について詳しく報告をしていただきました。

各出版社の特徴を報告していただき、最後に2社の報告を多くしていただきました。「啓林館」の場合は、裏表紙に振り返るような体裁により教科書が作成しているなどの工夫がありました。ご意見などあればお願いします。

<委員>

教科書を見の中で一番良いと感じたのは、「啓林館」の教科書でした。内容的に生徒が考えを深めていけるような構成になっていると感じました。

<会長>

「啓林館」の教科書については、構成が自ら学ぶというようなものになっている印象がありま

す。その他いかがでしょうか。

<委員>

「東京書籍」の教科書ですが、新採の先生でも分かりやすいということは、経験が豊富な先生だと使いにくくなる可能性もあります。緑色で課題が掲載されているため毎回課題を提示すればよいのですが、様々な課題の提示方法がある中で、そこから少し離れるとこの教科書が使いづらくなってしまわないかといった印象があります。これまで使用してきた「大日本図書」の教科書が目に残っている中で、「東京書籍」と「啓林館」の教科書が話題になったといった調査部会からの報告になると思います。

<会長>

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

委員からは、「啓林館」の教科書に対する意見が多く感じました。「啓林館」の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書について検討をお願いします。5点挙げてありますので、ご確認をお願いいたします。理由書については、調査部会からの報告にもありますが、「啓林館」の特徴などを記載しております。こちらの理由書によろしいでしょうか。

採択理由書（案）配付

<委員>

異議なし

<会長>

数学については、「啓林館」の教科書を採択いたします。ありがとうございました。

調査報告書，教科用図書見本本配布

理科調査部長入室

<会長>

理科部会の調査報告をお願いします。

<理科調査部長>

理科部会の調査結果を報告します。理科は、「東京書籍」の「新しい科学」，「大日本図書」の「理科の世界」，「学校図書」の「中学校科学」，「教育出版」の「自然の探究」，「啓林館」の「未来へひろがるサイエンス」の5社に関して，比較，検討をいたしました。

各出版社とも，学習指導要領の教科の目標を達成するために，内容はもちろんユニバーサルデザインや関連デジタルコンテンツ検索に至るまでさまざまな配慮が見られました。それぞれに特色があり，一長一短がありましたが，総合的に判断した結果を調査報告書の項目・観点に沿ってご説明いたします。

まず，1つ目の観点，自然の事物・事象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するための配慮です。

各社とも科学的に探究する流れや教科書の使い方を示し，実験や観察に使う器具の使い方やノートの手書き方，レポートの手書き方等を掲載するなど，工夫を凝らしていました。記載内容は，科学的な探究の手順に沿った流れで構成していました。また，考えさせたり，話し合い活動をさせたりするための記載の工夫がみられました。さらに，単元末や巻末に，重要事項のまとめや練習問題を掲載していました。

「東京書籍」は，巻頭の「科学で調べていこう」の頁で，探究の流れが教科書ではどの場面に当たるかを示し，探求の過程を踏まえた学習活動が進められるように配慮されていました。また，身の周りの事物・事象について考えさせる欄を設け，生徒の興味関心を高め，主体的に探究しようとする態度が養われるよう配慮されています。「課題に対する結論を表現しよう」では，各節の結論を生徒が自分の言葉でまとめるようになっており，章末に結論の例を示し，確認できるよう配慮されています。

「大日本図書」は，第1学年用の巻末に探究の進め方の頁を置いて，科学的に探究する手順や方法などを詳しく解説しています。また，各学年用の巻頭にも理科の学習の進め方の頁を置いて，学習の見通しを立てやすくしています。定着が難しい法則等には，具体的な問題と解説を付けて説明していることが特徴的でした。さらに，まとめの頁や単元末問題・読解力問題の充実により，基礎的・基本的知識の確認や活用ができるように配慮されている点が他社にはなく，大変優れていると思われます。観察・実験の解説では目的に加えて着目点を記載し，探究の方向を示唆しています。学習者にとっては見方・考え方のポイントを示した物であり，思考・判断の支援になると考えられ，これも他社にはない配慮で大変優れた工夫であると思われます。また，本文中に加え，基本的な器具や薬品の取扱方法や注意点が巻末資料としてまとめられており，検索しやすく工夫されているため観察・実験の技能面でも支援になるポイントであり，大変優れた配慮であると思われます。「くらしの中の理科」「科学のあしあと」「Science Press」「professional」など関心を高め，主体的に学習に取り組むことを促す情報欄を内容ごとに設け，学習内容に関連した事項について，日常生活でどのような活用をされているのか，これまでにどのように科学が発展してきたのか，防災にどのように関連し応用されているのか，関連してどのような職業があるのかを話題にしています。

続いて2つ目の観点「主体的・対話的で深い学びの実現についての工夫」です。

各社とも、小学校や他教科での既習事項の確認をしながら、次の学びを引き出す工夫が見られました。また、振り返りや練習問題に教科書の参照頁を付け、生徒自身が学びの確認をできるよう配慮されていました。さらに、キャラクターの会話を通して、他者との考え方の交流・対話的な学習のポイントを示し、課題解決のために有効な対話が生まれるような工夫をしています。

「東京書籍」では、各章の始めと終わりに「Before & After」を設け、章ごとに学習の振り返りができるよう工夫されています。「探究をふり返ろう」で学習の振り返りを自分の言葉で考え表現できるよう工夫されています。単元末に「学びをいかして考えよう」が設定されており、新たな問題発見のきっかけとし、深い学びへとつなげる工夫がされています。「考えが異なったら、考えを言葉にして議論しよう」では、対話的な学びにおける議論の進め方・ポイントが示されており、他社にはない工夫でした。

「大日本図書」は、単元の導入では、これまでに学習したことや、これから学習することを示すことで、学習内容を体系的に捉え、単元全体の見通しを立てやすくしています。

「思い出そう」の欄では、本時の学習に関連する既習事項の確認をさせておりスムーズな学習への取組を支援しています。また、「つながる」では他教科との関連を示しており、学習者の関心を高め、主体的な学びを促しています。単元末には探究活動、発展の頁を設置しており、生徒の興味関心に応じて学習後さらなる深い学びや高校での学習内容への関心をもたせ、つなげる工夫や継続した探究となるよう工夫をしています。

3つ目の観点、教材の配列、分量の特色です。

各社とも単元の配列に関しては、地域や学校の実態に合わせて変更しても支障がないように構成されています。分量については、「学校図書」「啓林館」のように観察・実験や発展の内容を精選・焦点化している物と「東京書籍」「大日本図書」「教育出版」のように充実させている物に分かれました。

「東京書籍」は、各単元の履修順序を入れ替えて指導しても支障がないように、関連する学習内容の掲載箇所を本文中に示し、多様な指導計画にも対応できるように配慮されています。また、節が細かく分類され、一節に一課題としてあり、章の最後に節の課題が明記されています。そのことで、生徒にとって学びやすい配列になっていました。

「大日本図書」は、単元の配列には、観察・実験に適した時期を考慮しながら、最も観察・実験や発展的活動の内容が充実されており、継続的探究を促すなど主体的に探究する能力を育成する配慮がなされています。また、学年間の調整がされており、それによって理科室や使用する備品の重複が避けられるため教科経営にも配慮がなされており、優れていると感じました。

最後に4つ目の観点、表記や表現、体裁についての配慮です。

各社ともユニバーサルデザインを意識しており、文字フォントやポイント、色遣い、重要語句の強調などにそれぞれの工夫がありました。つまずきやすい学習内容やさらに発展的な学習のためにデジタルコンテンツの活用を促すマークやQRコードを掲載するなどの工夫がされています。さまざまな配慮や情報の掲載により、レイアウトに見にくさや文字量過多の傾向にある出版

社が見られました。サイズによってカバーする工夫もありました。そのために、重量においては 500 g 台から約 800 g までさまざまに個性がありました。

「学校図書」と「教育出版」は写真や資料が最小限に抑えられており、物足りなさを感じましたが「啓林館」は文字量や資料が多く、見にくさを感じました。

「東京書籍」は、使用されている安全な実験操作のためのアイコンマークの表記が見落とされやすいことに注意して読む必要があります。A4 スリム版が採用されており、1 頁に表記できる内容が増えたことから、1 見開きを 1 時間で指導するとして構成されています。そのため視線の移動が少なく、流れがわかりやすいレイアウトになるよう工夫されています。重点項目には、探究をレベルアップとして紙面両縁に金色の帯がついているので検索しやすかったです。巻末には世界の活火山分布、震源分布、温帯低気圧モデル、星座早見のペーパークラフトが付録としてついていて資料としていつでも活用できるようになっています。

「大日本図書」は、わかりやすく豊富な写真や図表等の資料が見やすくレイアウトされています。茨城県で取材された物が多く使用されているために生徒にとって身近に感じやすく、関心を高める物でした。また、キャラクターの吹き出しなどを効果的に用いており、生徒にとって親しみやすいと感じました。記載事項は内容ごとに特徴的に色分けされており区別しやすく探究の過程を追いやすいと感じました。また、ノートと同じ B5 版サイズと 600 g 前後の重量も扱いやすいと感じました。

以上のことから、調査部会の見解では「大日本図書」の「理科の世界」が茨城県の生徒の実態に合っており、扱いやすいという意見がありました。

<会長>

ありがとうございました。調査部会の報告について、ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

「東京書籍」は、A4 スリム版が採用されておりますが、調査委員からはどのような意見がありましたか。

<理科調査部長>

頁サイズを大きくしたことで、盛り込むことができる内容が多くなっておりますが、大きさと重量について使いにくいといった話がありました。

<委員>

「大日本図書」の教科書で扱われている茨城県で取材されたものとは、こういったものがありますか。

<理科調査部長>

つくば市にあるジオパークや科学施設などの写真や記事が掲載されておりました。

<会長>

その他はございますか。

よろしいでしょうか。それでは、調査活動ありがとうございました。

この後、審議になりますので、一時待機をお願いいたします。

理科調査部長退室

<会長>

それでは、委員の中で意見などあればお願いします。

<委員>

調査部会からは、「大日本」の教科書についてより多くの報告をしていただいたように感じました。また、調査報告書からも良い点が多く挙げられております。

<会長>

ありがとうございました。それでは、「大日本図書」の教科書についての意見が多くありましたが、「大日本図書」の教科書を選定するということによろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書について検討をお願いします。8つの項目について作成しておりますので、ご意見をお願いいたします。こちらの理由書でよろしいでしょうか。

採択理由書（案）配付

<委員>

異議なし

<会長>

理科については、「大日本図書」の教科書を採択いたします。ありがとうございました。

調査報告書，教科用図書見本本配布 外国語調査部長入室

<会長>

外国語部会の調査報告をお願いします。

<外国語調査部長>

外国語調査部会では，6社の教科書を調査いたしました。6社ともそれぞれ特徴があり，小学校外国語科との接続を考慮したり，QRコードを取り入れたりするなど工夫が見られました。QRコードを用いることにより，学習する内容やコミュニケーションを行う場面や状況などが視覚的に捉えることができたり，自宅でも音声の確認ができたりと，主体的な学びにつながるように配慮されております。調査をしていく中で話題になりました2社の教科書につきまして，ご説明させていただきます。

まず，発行社番号2の「東京書籍」「NEW HORIZON」について説明させていただきます。

コミュニケーションを行う目的や場面，状況などが明記されています。実生活に即したコミュニケーション活動，「Let's Talk」が3年間を通して計画的に配置されており，統合的なパフォーマンス活動を行い，自己表現ができるように配慮されています。

Unitでは，文法や語彙の知識とそれらを伝える技能を身に付けられるように工夫されています。単元末には，複数の技能を使って統合的なパフォーマンス活動を行い，日常的な話題や社会的な話題についての発信に結び付けられるように配慮されています。第1学年ではUnit9で国際交流や協力について取り上げております。第2学年では，Unit3でAIの導入により変化する私たちの仕事から英語を学習する意味を考える内容やユニバーサルデザインについても取り上げられています。第3学年の教科書の表紙をめくると見開きでSDGsについて取り上げています。パラリンピックから人々を結びつけるスポーツの力や絶滅危惧種，核問題，防災や安全，国際協力などの内容が取り上げられております。英語を学習しながら，未来に思いをはせ未来を担う自分たちの志を持つことができます。

他社との大きな違いは，教科書のサイズがA4版になっており，頁数を抑えるとともに，単元を貫く問いや学習内容の参照頁を記載するなど，主体的に学びに向かうことができるような工夫がされています。Unitの最初の写真と「Question」で生徒の興味関心を高められるように工夫されており，単元のゴールも明確にされています。A4版サイズになることで教科書の重さや授業でノート等と並べた際の机の上の手狭感が懸念されました。重さに関しては，教科書に使用する紙の質を落とさず軽いものを使用する工夫がされておりました。

教科書のサイズに関しては，小学校で使用されている「NEW HORIZON Elementary」と同じサイズで，中学1年生にとっては違和感なく使用できると思います。小学校の外国語科で使用されている教科書が，「東京書籍」ということもあり，小中の接続期が充実し

ています。小学校での既習表現を織り込みながら、音中心の学習から段階的に文字につなげていきます。映像で場面に合う表現への気付きを促し、適切な表現で伝えることができるようにするための工夫がありました。

題材、活動についての見通しや到達目標が、単元の冒頭に提示されるなどの配慮がなされており、テーマに即した場面設定がなされ、多様な言語活動の展開を目指した配列に特色があります。

次に、発行社番号9の「開隆堂」「SUNSHINE ENGLISH」について説明させていただきます。

どの学年においても「PROGRAM」本文前では、新しい表現、文法を用いる場面を2コマ漫画の対話形式で示してあることで用いる場面とともに学習し、活動を通してそれらが身につくように工夫されています。教える側にとって、ターゲットセンテンスが1頁に集約されていることで、2コマ漫画をどのように用いてアプローチするか、多様な学習展開ができるという面白みもあります。

単元末や学期末では、既習表現を用いて対話活動やパフォーマンス活動に取り組めるようになっており、スモールステップを踏んで伝え合う力が育成できるように配慮されています。

内容に関しても日常的な話題や社会的問題が取り上げられています。1年生では、日本の文化、2年生では、カナダやニューヨークの食文化やロボット、3年生では、スマートフォンや記者会見の仕方やプラスチックゴミなど面白味のある内容となっています。

本文後の「Retell」では、本文についての写真や語句をもとに、自分が話せる内容を選んで話す活動を行うことで、自分の言葉で表現できるように工夫されています。また、「Retell」の後に「Interact」が設定されており、即興表現を育成できるようになっているのが大きな特色となっています。

小学校との接続教材では、音と文字の規則性を示すなど音から文字へつなげる手立てがみられます。漫画形式の会話で、場面に応じて使う表現を考え、相手に伝えることができるようにするための工夫がなされています。また、手書き文字に近い欧文書体が使用されるなどの文字学習への配慮も見られます。

言語材料、話題、思考・表現についての学習の見通しや到達目標が、単元冒頭に提示されるなどの配慮がされています。4段階構成の流れに沿って、言語の習得過程に即した配列に特色があります。以上で、2社の説明を終わらせていただきます。

<会長>

ありがとうございました。6社について調査活動をしていただき、その中から調査部会で話題になった2社を選んで詳しく報告をしていただきました。ご質問などあればお願いいたします。

<委員>

小中の連続性ということですが、小学校では「東京書籍」の教科書を使用している中、中学校では別の教科書を使用するとなった際に、現場では混乱などどのようなことが考えられますか。

<外国語調査部長>

同じ教科書会社の教科書の方が、学習の流れに対して似たようになっておりますので、教師側も教えやすいといった点があります。また、小学校で学習した単語が各頁に明記されていますので、非常に使いやすいと思います。しかし、「開隆堂」の教科書でも小中の接続はかなり意識をして工夫されていたので、現場の混乱としては心配なレベルではないと感じました。

<会長>

ありがとうございました。その他はいかがでしょう。

<委員>

「開隆堂」「SUNSHINE ENGLISH」の教科書で「R e t e l l」についての調査報告をしていただきましたが、「R e t e l l」の頁はどの部分になりますか。

<外国語調査部長>

1年生の教科書では、あまり多く掲載されておりましたが、3年生では多く取り上げております。また、本文の学習を振り返る内容としての「R e t e l l」の他に「TRY」や「I n t e r a c t」など段階を踏んで表現ができるようになっております。

<会長>

その他はございますか。よろしいでしょうか。それでは、調査活動ありがとうございました。この後、審議になりますので、一時待機をお願いいたします。

外国語調査部長退室

<会長>

それでは、委員の中で意見などあればお願いします。

<委員>

調査部会の報告にもありましたが、「東京書籍」か「開隆堂」の教科書が良いと感じました。「開隆堂」の教科書は、「R e t e l l」の部分があまり多くない印象がありました。「東京書籍」については、見やすく、取り上げている内容も世界的な視野やSDGsを取り上げているなど良い印象を受けました。

<会長>

その他ございましたら、お願いいたします。

小学校でも英語科が導入され、5、6年生である程度学んでいくことになりましたので、以前

の中学校からスタートする学び方とは変わってくると思います。

<委員>

東京書籍は扱っている話題も幅広く、現代の課題などをカバーしていることも含めて、刺激になると思います。QRコードを読み取ると音声とともに英文も流れており、その点でも「東京書籍」の教科書の方が良いと思いました。

<会長>

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

委員からは、「東京書籍」の教科書について多くの意見がありましたが、こちらを採択するという事でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書について検討をお願いします。

こちらの理由書でよろしいでしょうか。

採択理由書（案）配付

<委員>

異議なし

<会長>

外国語については、「東京書籍」の教科書を採択いたします。

調査報告書，教科用図書見本本配布

技術調査部長入室

<会長>

続きまして、技術部会の調査報告をお願いします。

<技術調査部長>

中学校 技術・家庭の技術分野について調査部会の調査結果についてご報告いたします。調査したのは、「東京書籍」「教育図書」「開隆堂」の3社の教科用図書です。

それでは、それぞれの教科用図書の特徴を、調査資料を基にご報告いたします。表に記載順、左からご覧ください。

まず、「東京書籍」の「新しい技術・家庭 技術分野未来を創る Technology」についてです。

1の取り扱う内容の選択の項目については、技術の見方・考え方を社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性の4つの視点の折り合いから技術を最適化することと捉え、どの内容においても見方・考え方をイメージしやすいように具体例を掲げて分かりやすくまとめているのが、特徴です。

各内容A～Dの導入頁には学習内容と共に技術の見方・考え方と技術の最適化についてまとめられており、学習の見通しが立てやすくなっています。技術の天秤、最適化の窓などを活用し、生活や社会とのつながりを意識したり、技術を多面的に評価したりすることで、技術の最適化を見出すことができるように配慮されています。

「TECH Lab」や「問題解決例」などといった、学習を深めるための頁やコラムによって、基礎技能の習得や実践的・体験的な活動を通して、社会との関わりなどについて理解を深められるよう配慮されています。

Society 5.0やSDGs、防災・環境などを重視して取り上げており、社会とのつながりを意識させて、今後の技術の在り方を考えられるよう工夫されています。

2の内容の程度及び取扱いの項目については、各内容とも、学びの過程、問題解決のプロセスが統一化されています。各頁にプロセスの現在位置が記されていて、生徒が学習の見通しをもちながら主体的に活動に取り組めるような工夫が見られます。

問題解決例として実習課題を多数掲載し、問題の発見、課題の設定、評価・改善のポイントを掲載し、生徒が主体的に考えながら取り組める工夫がされています。

学習を深めるための頁やコラム、技術の匠、技術のとびらを掲載したり、技術の工夫を各頁下部に記述したりすることにより、興味関心をもつことができるような工夫が見られます。

リンクや他教科、小学校のマークを用い、既習事項や今後の学習を関連付けて考えることができるよう配慮されています。

3の配列・分量の項目については、内容A～Dはバランスよく配分されていて、学習指導要領で示されている各内容の三つの要素である、生活や社会を支える技術、技術による問題の解決、社会の発展と技術を踏まえた学習の流れで構成されています。

QRコードが各編の始めに掲載され、インターネットを利用して、動画やシミュレーション、他教科との関連、ARなどのデジタルコンテンツが利用できます。発展的な課題や資料等の種類が豊富で、様々な実習例も取り上げています。

4の表記・体裁の項目については、各編の色分けや、インデックスの章ごとの表示など、検索性を高める工夫が見られます。

また、ユニバーサルデザインに配慮し、文字や写真、イラストなどが見やすくなるよう工夫されています。

次に、「教育図書」の「New技術・家庭 技術分野 明日を創造する」についてです。

1の取り扱う内容の選択の項目については、簡単な製作、育成を行ってから自分の設計にチャレンジに進むといった、ものづくりを重視した段階的な学習の流れになるように工夫されていて、基礎的な知識や技能を習得しながら学びを深めるように配慮されています。

生活上の課題を解決する視点で資料を掲載し、生徒が技術と社会や環境との関わりを理解できるように配慮されています。未来社会を創造するためにSociety 5.0やSDGsについても取り上げています。

具体的な加工法など図や写真を整理して大きく掲載し、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を習得しやすいように配慮されています。また、作業手順の説明の中に、基礎技能などのコーナーを示し、具体的な技能のポイントを確認できるよう配慮されています。

専門的な技術者や伝統的な技術の継承者などのコラムを掲載することで、ものづくりへの興味・関心を一層向上させることができる工夫もあります。

2の内容の程度及び取扱いの項目については、4つの編すべて3章構成となっており、各章とも、「見つける」から始まり「振り返る」で終わる流れで統一され、生徒が見通しをもって主体的に取り組めるような工夫が見られます。

各内容の「じっくり学ぼう」の頁では、問題を発見したり、解決したりしやすくなるような工夫と、それにより生徒が主体的に取り組めるような工夫が見られます。また、実習過程を細かく示し、生徒が実習例の写真や図を参考にしながら活動に取り組めるような工夫が見られます。

「やってみよう」「もっと知ろう」のコーナーを設けて、生徒が主体的に、学びを深めていけるような工夫も見られます。また、別冊ハンドブックも添付され、生徒が課題を解決する際に活用できるように配慮されています。

3の配列・分量の項目については、内容A～Dはバランスよく配分され、他社と同様、学習指導要領で示されている各内容の三つの要素を踏まえた学習の流れで構成されています。

多くの頁にQRコードが掲載されており、インターネットを利用して資料や動画などのデジタルコンテンツが利用できます。

課題意識をもたせるための吹き出しによる発問の記載や発展的に扱う実習例が充実している点、資料が豊富に掲載されている点に特色があります。

4の表記・体裁の項目については、各編を色分けしたり、インデックスを章ごとに表示したりするなど、検索性を高める工夫が見られます。本文のフォントサイズが大きく、重要語句が青色で表記されていて見やすく工夫されています。

教科書内には、安全、環境、災害、伝統文化、情報モラルといったマークを多用し、生徒が技術と社会や環境との関わりについて、いろいろな視点から見る手がかりとなる工夫が見られます。

最後は、「開隆堂」の「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」についてです。

1の取り扱う内容の選択の項目については、技術の見方・考え方について、科学的な原理・法則、工夫、技術のしくみを各内容において確実に踏まえた上で、技術を最適化することと捉え、この考えをもとに各編で技術の見方・考え方を捉える活動を繰り返し行うことで資質・能力が確

実に身につくように配慮されています。

各編とも知識や技能を身につける、問題から課題を考え、ものを作ることで課題を解決する、学習したことを社会に生かすという学習の過程がイメージしやすいよう構成されています。

各内容の学習のまとめとして、身につけた知識や技能をこれからの社会にどのように生かすかなど、持続可能な社会の構築への意識を高められる工夫が見られます。

2の程度及び取扱いの項目については、章ごとに学習目標と学習課題がしっかりと明記され、何についての学習なのか、生徒が理解して取り組めるように配慮されています。さらに、調べてみよう、考えてみよう、話し合ってみようといった導入課題を提示することで、友達や資料と対話し、生徒が主体的に課題意識をもって学習に取り組めるような工夫がされています。

科学的な原理・法則、工夫、技術のしくみの3つのキーワードを重視して、各内容の学習を展開しており、これらの3つのキーワードに関する記述が充実しています。

各頁の下部に、本文の追加説明として豆知識を掲載し、より多くの知識を得られるように工夫されています。

リンクのマークを付けるなど、小学校や家庭分野、他教科の内容との関連付けを図る工夫が見られ、相互の学習内容の理解を深めながら学習を進められるよう配慮されています。

3の配列・分量の項目については、内容A～Dはバランスよく配分され、他社と同様、学習指導要領で示されている各内容の3つの要素を踏まえた学習の流れで構成されています。

多くの頁にQRコードが掲載されており、それらを読み取ることでインターネットの資料や動画などのデジタルコンテンツが利用できます。また、学習指導要領には示されていない、発展的な内容も取り上げています。

4の表記・体裁の項目については、色分け表示で、検索性を高める工夫や本文中の単語が途中で切れないように改行したり、ユニバーサルデザインフォントを使用したりと、読みやすい工夫がされています。

A～D各内容の始めの頁に、それぞれの内容に関する技術の歴史が年表形式で表示されており、特徴的です。

以上、三社三様の良さがありますが、調査部会の調査の過程では、学習指導要領に基づく、技術の見方・考え方について分かりやすく押さえてあり、知識・技能面のみならず、主体的な学びと実践につながる技術による問題解決の学習過程を丁寧に記述してある「東京書籍」及び「開隆堂」の2社の教科用図書が優れているのではないかと意見が聞かれましたので、併せてご報告いたします。

以上で、調査結果の報告を終わります。よろしくお願いいたします。

<会長>

ありがとうございました。調査部会からの報告がありましたが、ご質問などあればお願いいたします。

<委員>

「教育図書」の教科書には、ものづくりなど面白味のある内容が掲載されておりますが、調査部会ではどのような意見がありましたか。

<技術調査部長>

「教育図書」の教科書は、基礎題材のような簡単なものづくりがあり、その後に発展させるような内容になっております。新学習指導要領では、技術の見方・考え方が重視されているかと思えます。全体的に、幅広く掲載されているかと思いますが、調査活動の中では、その部分が他の教科書よりは少ないように感じました。

<委員>

新学習指導要領では、見方・考え方を重視しているためその点は重要だと思います。

<会長>

その他いかがでしょうか。

<委員>

情報技術の分野が急速に進歩していると思いますが、その点において、3社の中で差はありましたか。

<技術調査部長>

その点において大きな差はありませんでした。

<会長>

その他はございますか。

よろしいでしょうか。それでは、調査活動ありがとうございました。

この後、審議になりますので、一時待機をお願いいたします。

技術調査部長退室

<会長>

それでは、調査部会の報告を踏まえて、委員の中でご意見などあればお願いします。

<委員>

3社の教科書を比較しましたが、一番見やすく直感的に面白いなと感じたのが、「東京書籍」の教科書でした。

<会長>

その他はございますか。

<委員>

「教育図書」の教科書は、日本語プログラミングなど掲載されており、わくわくするような内容でもありました。3社を全体的に比較すると、重要視されている見方・考え方がしっかり示されている「東京書籍」の教科書が良いと感じました。

<会長>

調査部会からの報告でも、見方・考え方や主体的な学びにつながるといった表現もありましたし、問題解決型の構成になっている点、委員からの意見から「東京書籍」の教科書を採択するというところでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書について検討をお願いします。10項目について掲載しておりますが、こちらでよろしいでしょうか。

採択理由書（案）配付

<委員>

異議なし

<会長>

技術分野については、「東京書籍」の教科書を採択いたします。

<会長>

当初の予定では、音楽部会の報告となりますが、時間の都合上、道徳部会を繰り上げて報告をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

調査報告書，教科用図書見本本配布 道徳調査部長入室

<会長>

道徳部会の調査報告をお願いします。

<道徳調査部長>

道徳部会の報告をさせていただきます。道徳部会では，4名の委員により，7つの出版会社の教科書について，詳細にわたって比較，検討をいたしました。その調査内容について，ご報告いたします。

「東京書籍」の「新しい道徳」についてですが，短時間で読める，人間としての生き方について深く考える教材，様々な立場から考える教材などを掲載しています。十分な話し合いを確保するため，設問は各教材2問に精選されています。重点項目は複数時間かけて段階的に，繰り返し学習できるよう工夫されています。生命の尊さやいじめ問題を扱う項目ではユニットを組むことで集中して学習できるよう配慮されています。教科書裏表紙に，二次元コード一覧を掲載し，教材に関連したデジタルコンテンツ，参考画像や動画などを見られるようになっています。

「教育出版」の「とびだそう未来へ」についてですが，学校行事の時期などを考慮した共感的に読める教材，切実感をもって考えられる教材，周りの人に関わりながら様々な角度から考える教材を数多く掲載するとともに，短い教材や見て分かる教材を積極的に掲載し，全学年を通して取り組みやすさが重視されています。生命の尊さ，いじめ，差別のない社会など重点項目は複数の教材でユニットを構成し，学年が上がるにつれて人との関わりや集団や社会との関わりの教材の比重を大きくする構成となっています。目次に二次元コードを掲載し，学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができるようになっています。

「光村図書」の「中学道徳きみがいちばんひかるとき」についてですが，等身大の生徒の葛藤，先人や現在活躍する人物の生き方を扱った生徒の心を捉える教材，他者との対話の意欲を高める教材など多様な教材をバランスよく掲載しています。重点項目は複数教材で扱うとともに，同じ内容項目を扱う教材は，生徒の生活実態や発達段階に合わせて，内容や量，世界の広がりなど学年ごとに傾斜をつけた配当となっています。教材タイトル下に二次元コードを掲載し，教材と連動したデジタルコンテンツを視聴することができるようになっています。

「日本文教出版」の「中学道徳あすを生きる」についてですが，ESDやSDGsを重点化している点に特徴があります。現代社会の諸課題に対応し，よりよい社会を創造するためのユニットやいじめに向き合うユニットが構成され，集中的に深い学びができるようになっています。また，学習を通して，生徒一人一人が自分を見つめ，自信をもてるようにするための配慮がされています。道徳ノートが付属しているのも特徴で，授業の内容や項目に応じて発問を工夫することができるようになっており，デジタルコンテンツも用意されています。

「学習研究社」の「明日への扉」についてですが，SDGsとキャリア教育についてユニット

学習になっている点が特徴です。特に、内容項目が異なる複数の教材を関連させ、多面的・多角的に考えさせるよう教材が配列されています。学習を通して、自己の生き方についての考えを深めさせ、プラス思考と未来志向の生徒を育てられるように配慮されています。

「廣済堂あかつき」の「中学生の道徳」についてですが、道徳的価値に関する問題を生徒が見つけ、考えを深める教材や役割演技や追体験などの表現を取り入れた教材など、多様な指導方法を取り入れた授業ができます。別冊の道徳ノートで学習を振り返ったり、「考えを広げる・深める」などで、活動のきっかけが示されたりするなど、主体的に考えるための工夫があります。道徳ノートの書き込みスペースは生徒が負担感を抱くことがないように、工夫されています。

「日本教科書」の「道徳中学校」についてですが、日常の身近な場面を切り取った教材や生命の尊重といじめの防止などを関連させて内容を取り扱っています。価値観の多様性を受け入れる寛容な心を育むことを重点化した教材が豊富です。ノートなどは付属しておらず、教科書一冊で完結しています。

最後に、調査部会で話題となった教科書について付け加えて報告いたします。

まず、「日本文教出版」の教科書です。問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材には、学習の進め方が設けてあり、タイトルの下には授業で何を議論するのか、どのような体験を通して考えるのかを示し、展開では、学習活動や体験場面を写真やイラストで示し、活動内容をイメージしやすくしています。

教科書に対応した別冊の道徳ノートに自らの考えと友だちの意見や、新しく発見した道徳的価値を書くことを通して、多面的・多角的に考えられるようにしています。また、学習状況や道徳性に係る成長の様子が分かり、指導と評価に役立ちます。ノートにはフリースペースが設けられ、担任の授業スタイルに対応できるように配慮されています。

続きまして、「東京書籍」についてです。巻頭の「道徳の授業はこんな時間」では、授業の流れが漫画形式で分かりやすく示されています。また、話合いの手引きでは、話合いの進め方が具体的に提示され、考え、議論する道徳の実践に向けて、生徒自身がイメージをつかめるよう工夫されています。各学年ともに問題解決的な学習や、役割演技を設定した体験的な学習を配置することで、道徳的価値を深く理解するとともに、学習内容を自分のこととして捉えられるよう配慮されています。

<会長>

ありがとうございました。調査部会からの報告がありました。

ご質問などあればお願いいたします。

<委員>

道徳が教科化されて、小学校、中学校で「日本文教出版」の教科書を使用してきました。その選定を行う際にも道徳ノートについて話題となりました。その道徳ノートについて、調査部会の中ではどのように評価されましたか。

<道徳調査部長>

道徳について、日々学んでいる教諭としては、自ら発問を考えることもあることから、使いづらさを感じると思います。ですが、毎回ワークシートを作成することはなかなか難しいことから、ある程度の道筋がある道徳ノートを使用することを評価しています。

<会長>

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。それでは調査部会ありがとうございました。

この後、審議になりますので、一時待機をお願いいたします。

道徳調査部長退室

<会長>

7社について調査部会からの報告をしていただきました。調査部会の報告では、「日本文教出版」、「東京書籍」について追加して報告をしていただきましたが、ご意見をお願いいたします。

<委員>

小学校道徳の選定を行った際にも、道徳ノートの是非について様々な議論をしました。これまで、そのノートを使用して授業を行ってきた中で、調査部会の報告のとおりノートについて評価しているとの報告がありました。中学校については、1年間の利用となりましたが、調査部会の報告のとおり道徳ノートが評価されている「日本文教出版」の教科書が良いと感じました。

<会長>

道徳ノートについては、固定した設問や回答欄のみではなく、フリースペースを設けて各自の発想により、感想等を記載できるようになっております。その他いかがでしょうか。

それでは、調査委員からの報告にもありましたが、「日本文教出版」の教科書を採択するということがよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書について検討をお願いします。

6つの視点で理由書を作成しておりますが、こちらの理由書でよろしいでしょうか。

採択理由書（案）配付

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、「日本文教出版」の教科書を採択いたします。ありがとうございました。

調査報告書，教科用図書見本本配布

音楽調査部長入室

<会長>

音楽部会の調査報告をお願いします。

<音楽調査部長>

中学校音楽科教科書の調査内容についてご報告させていただきます。音楽科の調査部会では、「教育芸術社」と「教育出版社」の2社の、一般と器楽の教科書について調査をいたしました。その結果をまとめたものが、お手元の資料になります。

この資料を基に、各教科書の主な特徴を2点ずつご説明させていただきます。

最初に、一般の教科書について、ご説明させていただきます。

まず、「教育芸術社」の教科書、「中学生の音楽」についてです。

1点目といたしまして、1年生の18頁・19頁をご覧ください。左上に学習目標、左下に音楽を形づくっている要素、曲名の下に具体的な学習活動を示した活動文、右頁上には、新出の音楽用語や記号が全学年を通じて各教材において同じ場所に設定され、音楽科における3つの資質・能力を生徒自らが意識することができ、主体的で確実な学びが実現できるような工夫が見られます。

2点目といたしまして、1年生の21頁から23頁をご覧ください。役割をもった子どもや大人のキャラクターの吹き出しによって、適宜学習のポイントや活動の手順等が丁寧に示されており、主体的・対話的でより深まりのある言語活動や協働的な学びを促す工夫が見られます。

次に、「教育出版」の教科書、「音楽のおくりもの」についてです。

1点目といたしまして、1年生の6頁をご覧ください。6頁の左下に、比べてみようP10、深めてみようP56とありますが、6頁の主要教材をもとに、10頁の楽曲、さらには56頁の楽曲を比較し、それぞれの曲が音楽的な要素のどのような点に関連しているのか、生徒が思考を働かせて学習する発展的な内容が充実しております。

2点目といたしまして、1年生の60頁をご覧ください。このように、各学年において何が同じで、何が違うのコーナーが設定され、様々な音楽について共通性や固有性について考え、自分の考えや交流の記録を書き込みながら対話的で共同的な活動が展開できるような工夫が見られます。

続いて、器楽の教科書について、ご説明させていただきます。

はじめに、「教育芸術社」の教科書、「中学生の器楽」についてです。

1点目といたしまして、70頁をご覧ください。15種類もの打楽器の基礎的な奏法について学ぶことができ、創作活動や表現活動をするための技能を確実に得られるような内容構成の工夫が見られます。

2点目といたしまして、各楽器の練習曲として段階的に無理のない教材が配列されております。80頁をご覧ください。テレビでおなじみの、笑点のテーマです。このように、馴染みのある魅力的且つ無理のないアンサンブル曲が多数掲載されており、生徒が楽しみながらペアやグループで協働的に学ぶ場面を想定した編集となっております。

次に、「教育出版」の教科書、「中学器楽」についてです。

1点目といたしまして、25頁をご覧ください。この写真のように、楽器を演奏する口元や手元のズーム写真で奏法を分かりやすく提示したり、22頁では、篠笛を演奏する口元のズーム写真も掲示されており、基礎的な技能の習得のための工夫が見られます。

2点目といたしまして、70頁をご覧ください。この荒城の月のような一般教科書で扱われている歌唱教材を、器楽の教科書でも取り上げることで、生徒が歌詞をもとにイメージを豊かにして楽器で演奏することをねらいとしております。また、既習した楽器の知識や技能を活用して学びが深められるような内容構成となっております。

以上、これらの調査結果から、基礎・基本を丁寧に取り扱い、全ての生徒が無理なく興味をもって主体的に取り組めるような内容構成であるとともに、生徒同士が関わり合いながら深い学びに向かうことができるという観点から、調査部会といたしましては、一般・器楽の教科書を総合的に見まして、「教育芸術社」の教科書が、地域の生徒の実態に合ったものであると考えます。

以上で調査内容についての報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございました。2社の教科書について調査報告をしていただきました。

ご質問などあればお願いいたします。特によろしいでしょうか。

それでは、調査活動ありがとうございました。この後、審議になりますので、一時待機をお願いいたします。

音楽調査部長退室

<会長>

ただ今の報告について基づいて審議を行います。ご意見をお願いいたします。

調査部会の報告では、「教育芸術社」について最後に付け加えて報告をしていただきました。

調査部会からの報告のとおり「教育芸術社」の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書について検討をお願いします。

それでは、一般、器楽について確認していただきましたが、こちらの理由書でよろしいでしょうか。

採択理由書（案）配付

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございました。音楽一般、器楽については、「教育芸術社」の教科書を採択いたします。

調査報告書，教科用図書見本本配布 美術調査部長入室

<会長>

それでは、美術部会の調査報告をお願いします。

<美術調査部長>

美術調査部会での調査内容についてご報告いたします。

美術調査部会では、調査報告書の通り「開隆堂」，「光村」，「日文」の3社の教科書について調査しました。

最初に、調査報告書を基に、各社教科用図書の比較結果について簡単に説明いたします。

はじめに、項目1についてです。3社ともに生活や社会の中の美術との関わりについて様々な工夫がしてあります。

「光村」は四季の美しさを暮らしに取り入れてきた日本人の心を考えさせ、日本の伝統を守り伝えようとする内容です。

「開隆堂」では、社会で活躍する人たちからのメッセージや美術が実際に社会で活用されている事例を多く取り上げています。

「日文」では、中学生が見つけた生活の中の美の写真やレポートなどが掲載されているなど、具体的な記述や紹介で分かりやすく、学習内容と社会へのつながりや広がり意識して、ページレ

イアウトなども行っています。

次に、項目2についてです。主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「光村」は、すべての表現題材に発想や構想の手立てを示していて、具体的にどのように発想を広げ、構想を練っていくのかが分かるため、主体的な学びに向かいやすくなっています。

「開隆堂」は、対話活動による場面を多く設定しており、話し合い活動を通じて発想や構想を広げたり、問題を解決したりすることを学習のポイントで示してあります。

「日文」は、各題材で造形的な視点が入っており、グループでの話し合い活動の際に論点になれるような工夫がしてあります。また、鑑賞題材において、問いかけ形式の表記がしてあり、見て考えられる内容になっています。

次に、項目3の題材の配列や分量についてです。3社とも題材の配列には工夫がしてあります。

題材数についてですが、「光村」が78、「開隆堂」が87、「日文」が104です。各学校の実態に合わせられる工夫として、「光村」はOA機器など様々な技法を紹介し、選択できるようにしてあります。

「開隆堂」は、各題材の軽重によって頁数を変えて、その中から題材を選択できるようにしてあります。

「日文」は、題材数が多く、それぞれの領域に短時間でできる題材も設定しており、その中から選択できるようにしてあります。

最後に、使用上の便宜についてです。3社ともQRコードを活用して、インターネット上で詳しい作品解説や道具の使い方を学ぶことができます。

「光村」と「開隆堂」は、2・3年を1冊にまとめていますが、日文は2・3年を上下にわけ2冊となっています。その分頁数に余裕があり、メインとなる写真を大きくするなど、文字とのバランスを考えたレイアウトで、学習の目的がつかみやすくなっています。

以上で、美術調査部会の報告を終わります。

<会長>

ありがとうございました。ご質問などあればお願いいたします。

それでは、調査活動ありがとうございました。この後、審議になりますので、一時待機をお願いいたします。

美術調査部長退室

<会長>

それでは、美術の教科書について審議に入ります。3社の報告をしていただきましたが、ご意見をお願いいたします。

<委員>

美術部会の調査報告書の内容からすると、「日文」の教科書が良いと感じました。

<委員>

各教科書を比較すると「日文」の教科書が見やすいように感じました。

<会長>

それでは、美術の教科書について、「日文」の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書について検討をお願いします。

それでは、こちらの理由書でよろしいでしょうか。

採択理由書（案）配付

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。美術については、「日文」の教科書を採択いたします。

調査報告書，教科用図書見本本配布

特別支援教育調査部長入室

<会長>

それでは，特別支援教育部会の調査報告をお願いします。

<特別支援教育調査部長>

それでは，特別支援教育部会での調査内容についてご報告させていただきます。

まず，資料についてですが，別冊３は，令和３年度使用小中学校特別支援学級知的障害者用教科用図書の採択に関する参考資料ということで，茨城県教育委員会から出されているものです。本調査はこの資料を基に，調査員５名で実施いたしました。調査報告書として小学

校用と中学校用に分けてそれぞれA3版にまとめてありますので、そちらもご覧ください。

では、具体的な説明に入らせていただきます。

まず、別冊3の1頁をご覧ください。1番の(2)の5行目に「毎年度異なる図書を選択することができる」と明記されておりますので、特別支援学級の教科用図書につきましては、毎年選定し採択していくことになります。

次に、(4)には、文部科学省著作教科書を採択する場合は、次の事項を基本とすることとあり、いわゆる著作本といわれるもので、☆1つは小学校1年生が、☆2つは小学校2年生が、☆3つは小学校3年生から6年生が使用するものとなっております。☆4つは中学校1年生が、そして令和3年度から☆5つが加わり中学校2・3年生が使用します。

新しい☆4つは、フォントを大きくしたり太字で強調されたりし、今までよりも見やすく配列されています。☆5つは、国語では文法的な内容の取り扱いや、数学では桁数や小数・分数まで数の拡張がされており、内容が充実しレベルが引き上げられています。

続きまして、2頁(2)をご覧ください。

種目ごとにA型とB型を基本としており、A型は、障害の程度が比較的軽い児童生徒の場合、B型は、障害の程度が比較的重い児童生徒の場合を対象に教科用図書を選定することになります。

次に(5)をご覧ください。一般図書とありますが、今ここにあるものが一般図書です。これは書店で販売されているもので、図書館や学校の図書室にもおいてある書籍です。このような本の中から教科用図書となるものを使用することができるということで、ここからも選定していくことになります。

次に、4頁をご覧ください。小学校における教科書採択の基本型が掲載されています。この基本に沿って、検定本・検下本・一般図書を選定いたしました。中学校については6頁をご覧ください。

次にA3の資料をご覧ください。これは種目ごとのA型、B型において選定する際の観点や使用学年及び図書名、さらに内容に関しての調査員の意見をまとめた資料となっており、昨年度選定したものを基本に再調査いたしました。

一般図書に関しましては特に、在庫がなかったり絶版になったりして来年度供給が不可能となってしまう本がございますので、全て出版社に問い合わせをして来年度も供給可能かどうか確認して選択しました。

そのような中で、今年度新たに追加した図書について説明させていただきます。

中学校の地理的分野に絶版がありましたので、今回「JTBパブリッシング」の、「るるぶ地図でよくわかる都道府県大百科」を追加しました。この本は、旅行ガイドブックのように写真を大きく使用しており、47都道府県の見どころ・主なスポットが写真付きで紹介されています。本書の頁をめくりながら、自然にどんなところかイメージをつかむことができ、行ってみたいという好奇心を掻き立てることができます。世界遺産やご当地グルメ等の特集で、都道府県を身近に感じることができ、日本ならではの、お祭り、温泉、名城、橋とダムといったコラムも充

実しています。さらに、イラスト入りの見やすい地図で、山、川、平野、産業、気候といった地理学習に欠かせないテーマも図版入りで詳しく紹介されていたので選びました。商業のタグも一切なく、学校でも問題なく使用できる本となっています。

同じく「るるぶ地図でよくわかる世界の国大百科」も同様の理由で選びました。

また、公民的分野についてですが、「全国手をつなぐ育成会連合会」の「あたらしいほうりつの本」を追加しました。福祉サービスや医療など障害のある人の暮らしを支える制度や法令がコンパクトに分かりやすく解説され、福祉サービスのことを中心に取り上げていることから選びました。

次にこれまで採択された本の特徴について、何冊か紹介いたします。

小学校の社会科で「評論社」の「せかいのひとびと」です。約75億の世界の人々の“一人一人の違い”を体型から始まり、人種・民族・語族・生活・宗教・風習・経済・多面的階級分化・差別・闘争等と様々な面に視点を置き描いています。世界への興味が視覚的に広がり、じっくりと時間をかけて味わうことができます。たいへん独特なタッチの絵本となっており、長年愛読されています。

次に、中学校理科の「学研図鑑LIVE12地球」は、地球の誕生とつくり、火山と地震、大地と海の姿等が、迫力ある写真と最新のデータで説明されている本です。文字情報中心の教材に困難を示す生徒にとっては、視聴覚に訴える資料が多い図書は、科学への興味・関心を高めるものになると考えられます。この本の一番の特徴は、無料アプリを使って頁をスマホでスキャンすると、オーロラや氷河などの3D映像や動画を見ることができ、色々な角度から自然現象の不思議を感じることができることです。平面的な写真情報にはない3D映像により、空間認知の力を付けさせることができます。

最後に、中学校外国語では、「成美堂出版」の「CD付き小学生の英語レッスン絵で見て学ぼう英会話」です。日常生活でよく使う英会話文例を、分かりやすいカラーイラストで説明しています。すべての会話文に、発音の手引として、カタカナの読み方が書いてあり、さらに強く読むアクセントは太字で示されています。さらに、ネイティブスピーカーによる発音が収められたCDが付いているので、繰り返しリスニングや発音練習ができます。ジェスチャーや動物の鳴き声も掲載されており、児童生徒が興味をもって学習できるようになっています。

以上のように、一般図書におきましては可能な限り、複数の教科用図書を選定・絶版本の削除・改訂版の有無を確認いたしました。

以上で、特別支援調査部会の報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございました。調査部会からの報告に対してご質問などあればお願いいたします。

特別支援教育については、A型B型とありますが、個々の実態に応じて選択をしていただくこととなります。また、一般図書については、選定した中から市町村ごとに採択をすることになり

ます。特にご質問はよろしいでしょうか。

それでは、調査活動ありがとうございました。この後、審議になりますので、一時待機をお願いいたします。

特別支援教育調査部長退室

<会長>

調査委員の中で、なにかご意見をお願いいたします。

A型B型については、それぞれの市町村における特別支援教育の実態に応じて使用していただくことになります。一般図書については、絶版の確認や新しい時代に合う視点等により調査部会の中から報告をしていただきました。最終的には、各教育委員会にて採択をしていただくことになりますが、こちらの図書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<委員>

B型の☆本についても、学年を記載した方が分かりやすいのではないのでしょうか。

<会長>

中学校と同様に学年を記載いたします。

それでは、こちらの理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

続きまして、小学校用教科用図書の確認に移ります。小学校については、昨年度採択を行っており、4年間同一の教科図書を使用することになりますので、継続して採択することになりますので、よろしくをお願いいたします。

<委員>

異議なし

<会長>

予定した調査部会の報告は以上になります。ご協力ありがとうございました。

続いて、採択結果及び理由等の公表について審議いたします。事務局より説明をお願いします。

<事務局>

事務局より公表についてご説明させていただきます。本日の要綱に記載されております協議会規約の第5章をご覧ください。情報開示については、第14条の通りでございます。公表するものは、第15条に定められていますように、当該教科用図書の種類、当該教科用図書を採択した理由、第12条の第2項の資料、協議会の会議の議事録となります。

これら公表のうち、当該教科用図書の種類、当該教科用図書を採択した理由については、こちらから電子データを各教育委員会に送付させていただき、それぞれの教育委員会ホームページ上に掲載していただくことをお願いしたいと考えております。それから、報告書及び会議の議事録については、事務局である大洗町教育委員会のホームページに掲載することで考えております。そのような方針で、よろしいかどうかご審議いただきたいと思います。

また、会議の議事録に関しては、大洗町で取りまとめた後、各教育委員会に確認をしていただいてから公開したいと考えております。規約には速やかにとありますが、当該教科用図書の種類の公開よりは、やや遅くなると思いますので、予めご承知ください。事務局からの説明は以上になります。ご審議の程よろしくお願いいたします。

<会長>

事務局から情報開示についての内容や手続き等について説明がありましたが、教科用図書の種類については、各教育委員会でアップをしていただきます。そして、資料、協議会の議事録については、事務局である大洗町でアップいたします。そのようなことでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、第4採択地区の公表は、そのようにいたします。

以上で全ての審議を終了いたします。その他、何かありますでしょうか。

それでは、以上で議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

<事務局>

飯島会長ありがとうございました。

それでは、事務局より要項にございます今後の予定について説明いたします。

各市町の教育長様には、本日の結果を、各市町教育委員会へ御報告をお願いいたします。今回、選定されました教科用図書一覧表の電子データを、作成後に各市町の事務局様に電子メールで送信いたします。

議決内容につきましては、7月27日月曜日までに、各市町教育委員会から議決をいただきますようお願い申し上げます。なお、議決が済みましたら、採択教科用図書一覧表を事務担当者にお渡しいただきたいと存じます。

各市町の議決の報告でございますが、同じく27日月曜日までに、文書で報告願います。なお、文書による報告が遅れる場合は、大洗町教育委員会学校教育課宛に、議決した旨、FAXにて連絡をいただければ幸いです。

最後に本日の資料ですが、教育長様がお持ちの資料は、各市町教育委員会保管用として下さい。その他の委員の資料は、お帰りの際に事務局までご提出願います。

それでは、「閉会のことば」を 本選定協議会副会長 笠間市教育委員会教育長 今泉 寛 様お願いいたします。

開会のことば 副会長 笠間市教育委員会教育長 今泉 寛 様

閉会時間 午後4時40分